

# JAPRS

*JAN.2024 No.1*  
新春号

一般社団法人 日本音楽スタジオ協会

# 目 次

会長年頭挨拶	1
2023年JAPRS企業説明会報告	2
令和5年度通常総会・懇親会について	4
OTOTEN 2023 JAPRSセミナー 実施報告	6
第22回JAPRS認定「サウンドレコーディング技術認定試験」実施報告	7
2023年JAPRSレコーディングセミナー～スタジオワーク編～	8
第20回スタジオ見学会「ポニーキャニオンタワーサイド」	10
第20回JAPRS認定「Pro Tools技術認定試験」実施報告	13
JAPRS交流会実施報告	14
「第33回JAPRSゴルフコンペ」レポート	15
Inter BEE 2023賛助会員社ブースツアーレポート	16
2023年JAPRS新人エンジニア育成研修会 実施報告	18
第21回スタジオ見学会「ソニーミュージックスタジオ」	21
第29回日本プロ音楽録音賞2023の開催と授賞式レポート	27
第29回日本プロ音楽録音賞2023 受賞エンジニア&作品紹介	30
第29回日本プロ音楽録音賞2023 審査委員講評	43
「音の日2023」	55
会員動向	56

## 会長年頭挨拶

(一社) 日本音楽スタジオ協会  
会長 高田 英男



明けましておめでとうございます。日本音楽スタジオ協会を代表し、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

この季節は特に空気が澄んで、ベランダから見える美しい富士山の姿に「今年もどうぞ宜しくお願い致します」と願う年の初めですが、世界規模の気候変動により多くの災害が発生し、更にウクライナ戦争の終結は全く見えない中、イスラムとハマスの軍事衝突により一般市民、特に子供が犠牲になる映像を見ることは本当に辛く平和の尊さを痛感する年の始まりです。

私自身スタジオ業界でのキャリアをエンジニアとしてスタートして半世紀を超えましたが、音楽ビジネスも大きく変化しています。レコードによる音楽制作が主流の時代にこの業界に入り、CD ビジネス―ハイレゾリューション音源のダウンロード・ストリーミング配信、更には配信によるイマーシブサウンドが、スマートフォンやタブレット端末によりヘッドホンやイヤホンで楽しめる時代となって来ています。

ある制作者から「時代に即した音楽ビジネスに対応しヒット曲創りする事が正しい音楽制作である」との話を伺いその通りだと思ふ反面、別の制作者からは「1970 年時代から音の質に対しては録音技術の進化は基本無いね」と言う厳しい意見も耳にします。

デジタル技術の進化により、多くの人が音楽制作を出来る環境を手に入れやすくなったことは素晴らしく、今後更なる進化により便利になった AI 技術も使い簡単にミキシングやマスタリングが出来る時代になってくる中、音楽制作への強い思いや拘りの強さが最終的に一番大切な事である思いを強く感じております。

昨年の第 29 回日本プロ音楽録音賞の受賞作品を通じて、ベテランエンジニアが持つ匠の技術と感性で創られる深い音楽感動と同時に、次世代エンジニアならではの若い感性が創造するサウンドから新しい時代の音楽の素晴らしさが伝わり、録音業界はベテランエンジニアと次世代エンジニアがクロスする印象的な時代になったと感じました。

日本音楽スタジオ協会として、プロフェッショナルな音楽スタジオとの更なる関係を深め、音楽録音業界のトップとして拘りの設備環境を維持すべく課題に取り組み、新たなエンジニアのスターを輩出する為に、(一社) 日本オーディオ協会・(一社) 日本レコード協会・(特非) 日本レコーディングエンジニア協会を始め他団体との連携によりその流れを強化し、新たなステージに向けた日本音楽スタジオ協会を構築して行きたいと思っております。

本年度も日本音楽スタジオ協会へのご支援ご鞭撻を何卒宜しくお願い申し上げます。

## 2023 年 JAPRS 企業説明会報告

2023 年 5 月 20 日（土）専門学校 ESP エンタテインメント東京・12 号館において、2023 年 JAPRS 企業説明会を開催しました。

専門学校 18 校から 187 名の参加の中、下記の通り 9 社による企業説明が行われました。



企業説明会風景



企業説明会受付

企 業 名	出 席 者 名（敬称略）	
(株) エムアイティギャザリング	MIT STUDIO リーダー	重田 洸一
	〃 サポートリーダー	荒谷 莉子
	MIT MANAGEMENT リーダー	河村 美幸
(株) キング関口台スタジオ	経営本部長	高橋 邦明
	渉外グループ長	井上 慎太郎
(株) サウンドインスタジオ	スタジオグループ 部長	河野 洋一
	技術グループ	佐藤 千恵
	レコーディングエンジニア主任	
(株) サウンド・シティ	取締役	明地 権
	マネジメント div. 部長	田中 菜穂
(株) JVC ケンウッド ・ビクターエンタテインメント	ビクタースタジオ長	石野 憲一
	エンジニアグループ	中山 佳敬
日本コロムビア（株） （株）フェイス	スタジオ技術部・部長	冬木 真吾
	グループ人事部・採用担当	須藤 明莉
(株) ミキサーズラボ	専務取締役	中村 隆一
	営業	紋田 夏実
(株) サンフォニックス	販売技術部	黒岩 広巳
(株) メディア・インテグレーション	取締役	岡田 詞朗

※ 肩書等は開催当時のものです。



(株) エムアイティギャザリング

(株) キング関口台スタジオ



(株) サウンドインスタジオ



(株) サウンド・シティ



(株) JVC ケンウッド  
・ビクターエンタテインメント



日本コロムビア (株) / (株) フェイス



(株) ミキサーズラボ



(株) サンフォニックス



(株) メディア  
・インテグレーション



開場を待つ参加学生



## 令和5年度通常総会、懇親会レポート

### <通常総会>

令和5年6月9日(金)、コロナ禍においてはオンライン開催としていた通常総会ですが、4年振りにバトүүл東京3F「ホールB」において対面を主としたオンラインを併用しての令和5年度通常総会開催し、平成4年度の事業報告書(案)、収支決算報告書(案)、令和5年度事業計画書(案)及び収支予算書(案)に関し正会員に諮り、全ての議案が賛成多数により承認されました。

はじめに、内藤事務局長が定足数の確認を行い、書面表決者を含む32名の出席数を確認(定足数)、総会の開会を宣言。

続いて高田会長が議長に当たり、議事録署名人として高橋副会長、金井監事の両名が選出されました。

次に内藤事務局長より第1号議案「令和4年度事業報告書(案)」、「収支決算報告書(案)」について説明が行われ、審議の結果、異議なく全員一致で承認されました。

続いて内藤事務局長より第2号議案「令和5年度事業計画書(案)」、そして「収支予算書(案)」について説明が行われ、審議の結果賛成多数で承認されました。

最後に議長である高田会長が閉会を宣言し総会を終了いたしました。



通常総会開催の様子

### <懇親会>

通常総会終了後、18:30よりバトүүл東京1F「メイン会場」において、正会員、準会員、賛助会員及び招待者を含む67名が集い、懇親会が開催されました。

司会進行は、総務委員会の萩原一哉氏(稲葉建設(株))が担当し、高田会長から挨拶がされ、その中でコロナ禍に入会された個人正会員古賀健一氏、賛助会員(株)スタジオイクイプメントの

北俊介氏、そして新規入会の法人正会員(株)EMP(懇親会当時:エグジット音楽出版)の能瀬秀二氏が紹介されました。

続いて、経済産業省 商務情報政策局 コンテンツ産業課 課長補佐 梅澤隼氏により来賓代表として挨拶が述べられました。

そして、(株)EMP 能瀬秀二氏により乾杯の発声が行われ、歓談タイムとなりました。



高田会長



経済産業省 梅澤 隼氏

更に歓談が続き中締め時間となり、総務委員会・中村委員長による挨拶が行われ、4年振りとなる懇親会も無事に終了となりました。

スタッフとして開宴前より準備にご協力いただいた会員の皆様、ありがとうございました。



古賀 健一氏



(株)スタジオイクイメント  
北 俊介氏



(株)EMP  
能瀬 秀二氏



中村総務委員長



## OTOTEN 2023 JAPRS セミナー 実施報告

東京国際フォーラムにて（一社）日本オーディオ協会主催「OTOTEN2023」が6月24～25日に開催され、JAPRS 会員2社のご協力のもと、出展ブース G405 にてレコーディングエンジニアを目指す方々に向けて下記の通りセミナーを実施。各回とも多くの参加をいただきました。



### 6月24日（土）（株）ミキサーズラボ

11：30～12：30 ※ 学生向け

／ 17：00～18：00 ※ 一般向け

石川さゆり 50周年記念アルバム 「Transcend」

「新時代に向けた音創りの試み」

～それぞれのパッケージ

（CD／SACD／アナログ盤）に対応した録音制作～

講師：内沼 映二 （株）ミキサーズラボ 会長

／日本音楽スタジオ協会 名誉会長



内沼 映二氏

### 6月25日（日）日本コロムビア（株）

11：30～12：30

「生楽器録音のアプローチ」※ 学生向け

13：00～14：00

「日本プロ音楽録音賞」受賞作品を聴く」※ 一般向け

講師：塩澤 利安 日本コロムビア（株）

スタジオ技術部

チーフレコーディング・エンジニア



塩澤 利安氏



セミナー会場の様子



音源再生はオタリテック（株）のご協力で PMC 社 IBS-A II が使用された。



## 第 22 回 JAPRS 認定「サウンドレコーディング技術認定試験」 実施報告

7月2日（日）、札幌 × 2、仙台 × 2、郡山、新潟、東京 × 8、名古屋 × 4、大阪 × 4、広島、博多 × 2 の 8 地区 25 ヶ所の団体受験会場に分散して、「第 22 回 JAPRS 認定サウンドレコーディング技術認定試験」が実施されました。

本年度の申請者数は 655 名に対して受験者数は 595 名となりました。

試験内容は例年通り四者択一マークシート方式で、音響の理論 / 電気音響とスタジオシステム / レコーディング技術と先進技術 / 音楽・音楽著作権・音楽録音の流れ・録音の歴史などの 4 ジャンルから各 25 問（計 100 問、1000 点満点）が出題されましたが、平均点は 797.4 点という結果になりました。



名古屋地区会場

以下の通り実施結果の詳細を報告致します。

- (1) 受験申請者 655 名 欠席 60 名 受験者 595 名  
最低点 250 点 最高点 1000 点 (63 名) 平均点 797.4 点

- (2) 平均点詳細（各ブロック 250 点満点）

I . 音響の理論

正答率 82.5% 平均点 206.4 点

II . 電気音響とスタジオシステム

正答率 77.9% 平均点 194.6 点

III . レコーディング技術と先進技術

正答率 80.2% 平均点 200.4 点

IV . 音楽・音楽著作権・音楽録音の流れ・録音の歴史など

正答率 78.4% 平均点 196.0 点

- (3) 得点別人数

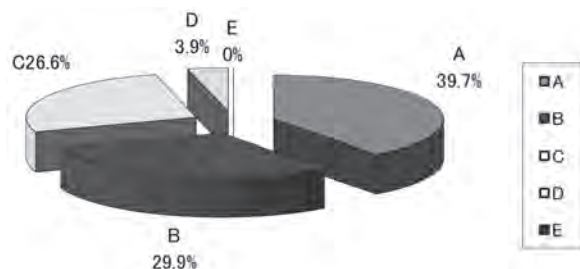
1000 ～ 900	247 名
890 ～ 800	91 名
790 ～ 700	80 名
690 ～ 600	62 名
590 ～ 500	73 名
490 ～ 400	33 名
390 ～ 300	6 名
290 ～ 200	3 名
200 ～ 0	0 名

計 595 名

- (4) ランク別人数

A ランク	1000 ～ 901 点	236 名
B ヶ	900 ～ 701 点	178 名
C ヶ	700 ～ 451 点	158 名
D ヶ	450 ～ 201 点	23 名
E ヶ	200 点以下	0 名

計 595 名



## 2023 年 JAPRS レコーディングセミナー ～スタジオワーク編～レポート

専門学校委員会の主催により実施されているこのセミナーは、JAPRS 賛助会員加盟専門学校の2年生以上を対象として、東京地区、大阪地区正会員スタジオおよび名古屋ビジュアルアーツを会場とし、プロのレコーディングスタジオにおけるアシスタントの役割について伝える内容となっています。

今回は、6月17日（土）：東京地区、7月8日（土）：名古屋地区、7月9日（日）：大阪地区での開催となりました。

### 実施内容

- ①. セミナー使用スタジオについての説明
- ②. 音源データの取り込みについて（取扱い&確認事項など）
- ③. ボーカルダビングのセッティングについて
- ④. ボーカルダビングを想定したセッティングおよび歌詞等の準備について
  - ・譜面を追って進行の確認&カウンター書き
  - ・ボーカルトラックを聴きながら歌詞カードへのカウンター記入
  - ・ボーカルエディット作業について実演および受講者体験
- ⑤. アシスタントへの質問コーナー
- ⑥. ダビング作業の実践（アコースティックギター）
  - ・マイキングやアウトボードによるサウンドメイキング
  - ・演奏者とのやり取り
  - ・ラフミックス作業
- ⑦. エンジニアからの受講者皆様への総括 ～ Q & A

**東京地区会場**（6月17日（土）於：ビクタースタジオ 303st）

参加者：7校40名

エンジニア：中山 佳敬 氏／ビクタースタジオ

アシスタントエンジニア：藤田 成哉 氏／ビクタースタジオ

**名古屋地区会場**（7月8日（土）於：名古屋ビジュアルアーツ Pixy Studio）

参加者：1校15名

エンジニア：中山 佳敬 氏／ビクタースタジオ

アシスタントエンジニア：藤田 成哉 氏／ビクタースタジオ

**大阪地区会場**（7月9日（日）於：スタジオグルーヴ Ast）

参加者：3校37名

エンジニア：中山 佳敬 氏／ビクタースタジオ

アシスタントエンジニア：及川 拓馬 氏／スタジオグルーヴ

進行サポート：金子 拓人 氏／スタジオグルーヴ

## タイムスケジュール

東京会場：ビクタースタジオ 303st  
6月17日（土）

1回目 10：00～12：15

2回目 13：00～15：15

3回目 15：30～17：45



名古屋会場：名古屋ビジュアルアーツ  
Pixy Studio

7月8日（土）1回目 13：00～15：15



大阪会場：スタジオグローヴ Ast  
7月9日（日）

1回目 11：30～13：45

2回目 14：30～16：45



## 第 20 回スタジオ見学会「ポニーキャニオン タワーサイドスタジオ」

賛助委員会主催 第 20 回スタジオ見学会「ポニーキャニオン タワーサイドスタジオ」が 7 月 20 日（木）に下記概要にて開催されました。

※株式会社エグジット音楽出版は令和 5 年 9 月より株式会社 EMP へ社名変更しております。

日 時： 令和 5 年 7 月 20 日（土）

会 場： ポニーキャニオン タワーサイドスタジオ T2 スタジオ

内 容：

- I. ご挨拶 能瀬 秀二氏／株式会社エグジット音楽出版 取締役
- II. ポニーキャニオン タワーサイドスタジオの説明とスタジオ体験

飯塚 明 氏 （株式会社エグジット音楽出版 制作技術部）

光井 里美 氏 （ ）

小林 寛将 氏 （ ）



岡田賛助委員長

岡田賛助委員長による見学会開催の挨拶の後、株式会社エグジット音楽出版（現：株式会社 EMP）の取締役 能瀬氏から、会社の歴史や業務の説明がされた。

[歴史など]

株式会社エグジット音楽出版（現在：株式会社 EMP）  
2001 年にダンスミュージック専門レーベルとして  
会社設立。

2006 年、株式会社ポニーキャニオンと資本提携し、  
2009 年にはポニーキャニオンのグループ会社となる。

2011 年 10 月、商号をエグジットチューンズ株式会社に変更。

2014 年 04 月、ポニーキャニオンの 100%子会社となる。

2019 年 07 月、音楽出版事業及び作家マネジメント事業の事業会社として会社分割し、商号を「株式会社エグジット音楽出版」に変更。



(株) エグジット音楽出版  
取締役 能瀬 秀二氏

[業務内容]

- 1. 音楽出版 ボカロ系の曲の管理 それに付随する楽曲の管理も始める
- 2. harevutai ライブ劇場の運営、最新の設備を投入し新しいことが出来る試み  
透過スクリーンを常設し立体的な演出も可能
- 3. エンジニア レコーディング、マスタリング、映像のエンジニアが所属  
マスターのアーカイブ業務、配信  
マスター、スタジオブッキング等の管理業務  
スタジオ（代々木、渋谷、タワーサイド、マスタリング）
  - ・代々木（1st：リズム録り可能／2st：ワンプース、ダビング対応）
  - ・渋谷（Ast/Bst ワンプースのスタジオ、Dolby Atmos 対応スタジオもある）
  - ・タワーサイド（T1、T2）※ 今回の見学対象は T2 スタジオ
- 4. ライブ配信 販促イベント、プロモーションなど  
ホール等からのライブ配信も対応  
本社にグリーンバックを常設したスタジオも準備
- 5. 管理 関連会社の経理、経營業務を行う



能瀬氏からの説明に続き、今回見学するスタジオ「ポニーキャニオン タワーサイドスタジオ」について制作技術部の飯塚氏、小林氏から説明がされました。

今回見学する T2 スタジオは、壁紙や天井等の内装については更新がされているが、スタジオのシステムとしては基本的に変更されていないとのこと、今回見学の対象ではない T1 スタジオについては、アーティストのプリプロ中心と言うこともあり、使い勝手を考慮して SSL 4000G から SSL の ORIGIN へと入れ替えている他、内装等についても大幅に更新されているとのことで、コンソールの後ろには作業デスクが準備されており、アーティストが自身の PC を持ち込んでの作業も可能となっていて、プライベート感



制作技術部  
飯塚氏 小林氏



スタジオ T2 コントロールルーム

覚で使用出来るスタジオになっているとのことでした。また、T1 スタジオについては Pro Tools のみでの作業と言うことで、PCM3348 やアナログ用のピットを埋め尽くしていた回線は全て撤去し、T2 スタジオについては基本的にピット内やカセット類の回線は取っ払ってしまっているものの、アーカイブ業務への対応を考慮して 3348 やアナログ用の回線は残し、エルコでの繋ぎ変えにも対応しているそうです。エフェクターのサイドラックも若手エンジニアの意向を汲み、スタジオが広く使えるように使い勝手を優先して無くし

たとのことでした。



制作技術部 光井氏

続いて、内装やデザインに関する改修のポイントについて、制作技術部 光井氏から説明がされました。天井が低く地下と言うイメージを払拭するために、元々使われている木のイメージを生かしながら明るい雰囲気を目指して内装の色合いや設置する家具を考慮したそうです。

ロビーについても壁紙の張替えはもちろんのこと、喫煙者の配慮として喫煙ブースの設置をしたのですが、天井が低くダクトとの取り合いが難しく簡単には行かなかったとのことで、ギリギリの線を詰めていったとのことでした。また物は基本的に少なくし、更に移動が簡単な家具を選んだそうです。

以上の通りスタジオに関する説明をいただいた後に、参加者各自でスタジオ内の見学やモニタースピーカーの試聴に分かれ、それぞれの質問等に対応いただく時間となりました。

ここ、ポニーキャニオン タワーサイドスタジオは長い歴史のあるスタジオながら、細かな気配りと思い切りの良さで、今に即した使いやすいスタジオを目指していることが強く感じられました。

見学会に向けてご準備いただきました能瀬様はじめスタッフの方々、貴重な体験をありがとうございました。



使いやすく整理されたロビー



スタジオ T2 コントロールルーム



スタジオ T2 モニター WESTLAKE TM-3



コントロールルームの説明風景



スタジオブースの説明風景



ロビーの説明風景



天井を作り直して設置された喫煙ブース



## 第 20 回 JAPRS 認定「Pro Tools 技術認定試験」実施報告

9月10日（日）、札幌 × 2、仙台 × 2、新潟、東京 × 9、横浜、名古屋 × 4、大阪 × 4、広島、博多 × 2 の 11 地区 26 ヶ所の団体受験会場に分散して、「第 20 回 JAPRS 認定 Pro Tools 技術認定試験」が実施されました。本年度の申請者数は 814 名に対して受験者数は 710 名となりました。

また、今回の試験については、昨年と同様に受験者個々の Pro Tools に関する知識をより明確に把握するために、初級 50 問（500 点）、中級 50 問（500 点）の出題構成とし、それぞれ「Pro Tools 概要」「録音・編集」「ミキシング」「シンク・MIDI・ファイル管理など」に区分された出題としましたが、初級問題の正答率は 66.2%、中級問題については 62.4%、全体的な正答率は 64.3%という結果になりました。

以下の通り実施結果の詳細を報告致します。

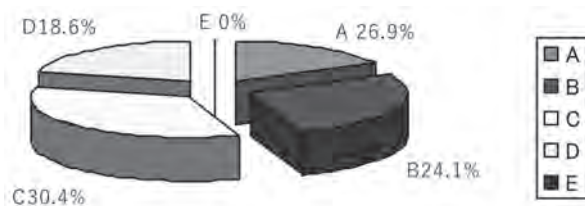


東京地区会場

- (1) 受験申請者 814 名 欠席者 104 名 受験者 710 名  
最低点 240 点 最高点 1,000 点（38 名） 総合平均点 699.1 点
- (2) 平均点詳細
  - 初級 1（Pro Tools 概要／ 90 点）： 62.6 点
  - 初級 2（録音・編集／ 130 点）： 94.8 点
  - 初級 3（ミキシング／ 110 点）： 103.5 点
  - 初級 4（シンク・MIDI・ファイル管理など／ 170 点）： 16.2 点
  - ◆初級計 346.1 点
  - 中級 1（Pro Tools 概要／ 120 点）： 60.2 点
  - 中級 2（録音・編集／ 140 点）： 104.3 点
  - 中級 3（ミキシング／ 90 点）： 61.5 点
  - 中級 4（シンク・MIDI・ファイル管理など／ 150 点）： 106.1 点
  - ◆中級計 305.0 点
- (3) 得点別人数
 

1000 ～ 900	201 名
890 ～ 800	96 名
790 ～ 700	70 名
690 ～ 600	81 名
590 ～ 500	74 名
490 ～ 400	117 名
390 ～ 300	65 名
290 ～ 200	6 名
200 ～	0 名
計	710 名
- (4) ランク別人数
 

A ランク	1000 ～ 901 点	191 名
B	900 ～ 701 点	171 名
C	700 ～ 451 点	216 名
D	450 ～ 201 点	132 名
E	200 点以下	0 名
		計 710 名





## JAPRS 交流会

「JAPRS 交流会」とは、これまで行っていた「賛助会員交流会」、「JAPRS 忘年会」に代えて、若手からベテランまで幅広く会員間の親睦を深める新たな交流イベントです。

9月20日（水）、渋谷「南国亭」に於いて、法人正会員12社35名、賛助会員14社26名、個人正会員2名、事務局1名の計64名の参加者により開催されました。

開催意図の通り多くの会員社に参加いただき、今まであまり接点を持てなかった会員同士での積極的な交流を図ることが出来る会となりました。

またコロナ禍では行うことが出来なかった交流の場の重要性もあらためて実感しました。

開催にあたり企画および会場設定に尽力いただきました総務および賛助委員会の方々に深く感謝いたします。



JAPRS 交流会の様子



いくつもの交流の輪が出来ていました。



## 「第33回 JAPRS ゴルフコンペ」レポート

10月19日（木）、栃木県鹿沼市の鹿沼カントリー倶楽部北コースにおいて、第33回目を迎えたJAPRS ゴルフコンペが開催された。参加者はJAPRS 法人正会員7社11名、個人正会員1名、賛助会員3社3名、JAPRS 会員OB および関連会社等15名 合計8組30名で、早朝8：40に集合しクラブハウスの受付が完了しました。

9：00に北コーススタートホール前の小屋集合となり、賛助委員会 稲葉建設の萩原 一哉氏よりルール等の説明、JAPRS 高橋副会長からの挨拶、そして参加者全員の記念写真を撮影後にIN、OUTコースに分かれ、コンペがスタートしました。

競技終了後、クラブハウス2F レストランにおいて順位発表がされ、本年度の優勝者・佐藤 尚氏をはじめ、各賞が参加者に手渡されました。

最後に総務委員会 中村 隆一委員長の締めの言葉により無事コンペが終了しました。



優勝・佐藤 尚氏



中村総務委員長



高橋副会長

優勝：佐藤 尚／テイチクエンタテインメント

準優勝：森 知明／ワイズドットコム

3 位：根岸 義久／MPN

ベストグロス賞：伊藤 猛／バーディハウス

ニアピン賞：佐藤 尚、檜山 直樹、清水 三義

ドラコン賞：中村 隆一、佐藤 尚、檜山 直樹、五十嵐 惇帆（敬称略）



スタート前の集合写真

## Inter BEE 2023 賛助会員社ブースツアーレポート

(株) メディア・インテグレーション  
岡田 詞朗

今年で59回目を迎えた「Inter BEE 2023」は、2023年11月15日（水）～17日（金）3日間、幕張メッセにて開催されました。出展者数1,005社／団体、出展小間数1,704小間の開催となり、結果31,702名（重複無しのユニーク数）の来場者がありました。昨年のInter BEE 2022の来場者数が26,901名でしたので、昨年比117%のアップとなり、新型コロナウイルス感染症が本年5月より5類感染症に変更された影響を強く感じ取ることが出来ました。同様に賛助委員会主催Inter BEE 2023ブースツアーの訪問先も昨年の11社から今年は18社に大幅に増加、コロナ以前の状況に戻ったと言っても過言ではないでしょう。



さて今年のInter BEE 2023は、アフターコロナ時代におけるメディア産業の新たなユーザーエクスペリエンスを提示する展示会として、「コンテンツ」を中核に位置づけ、コンテンツを「つくる（制作）」「おくる（伝送）」「うける（体験）」の技術要素を網羅した「メディア総合イベント」に変容することを目指しておりましたが、プロオーディオ部門ではここ数年盛り上がりを見せていたイマーシブ・サウンド関連の展示が目立ちました。特にSR市場でのイマーシブ・サウンド展示が多く見受けられ、レコーディング市場は元よりイマーシブ・サウンドの音楽業界全体への定着がさらに加速しているように思われました。



またIP伝送系の展示も数多く見受けられ、映像や音を含むマルチ・フォーマット対応機器の需要の高まりが印象的でもありました。

次回の「Inter BEE 2024」は、2024年11月13日（水）から15日（金）の3日間、幕張メッセでの開催を予定されております。その際は今年同様賛助委員会主催でブースツアーを開催したいと考えております。

最後に以下が今回の Inter BEE 2023 ブースツアーにご協力頂いた賛助会員一覧となります。(アイウエオ順、敬称略)

株式会社エムアイセブンジャパン  
オタリテック株式会社  
株式会社オーディオテクニカ  
有限会社グルーヴ  
株式会社サウンド・シティ  
株式会社サンフォニックス  
株式会社ジェネレックジャパン  
株式会社静科  
シュア・ジャパン株式会社  
株式会社スタジオイクイメント  
ゼンハイザージャパン株式会社  
ソリッド・ステート・ロジック・ジャパン株式会社  
タックシステム株式会社  
日本音響エンジニアリング株式会社  
日本環境アメニティ株式会社  
ヒビノインターサウンド株式会社  
ミックスウェーブ株式会社  
株式会社メディア・インテグレーション





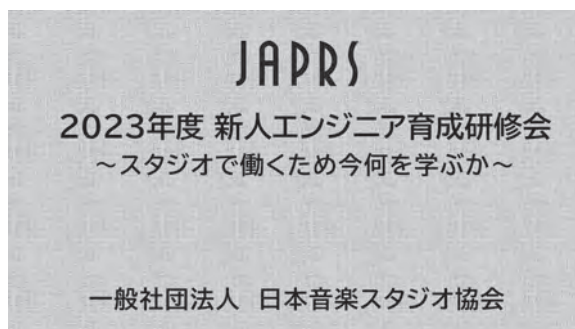
## JAPRS 2023 年度新人エンジニア育成研修会 実施報告

専門学校委員会主催による「2023 年度 新人エンジニア育成研修会～スタジオで働くため今何を学ぶか～」を、全国の専門学校から参加いただけるように ZOOM ウェビナーにてオンライン開催いたしました。

この研修会は、これから音楽スタジオ業界への就職を目指す JAPRS 賛助会員専門学校 1 年生を主な対象とし、レコーディングスタジオで働くということがどんなことなのか、またそこで働くためには何を学んでおけば良いのかを知っていただくために開催されています。

当日は、ビクタースタジオ 303st をホストとして配信を行い、下記の内容で研修会を進行いたしました。

当日参加出来なかった学生に対してアーカイブ動画の配信も行っております。



YouTube でのアーカイブ動画配信

### 【1 部】

#### 1. 会長挨拶「スペシャリストを目指して」

高田 英男 JAPRS 会長

何をポイントとして新人エンジニア育成研修会に臨めば良いのか、そしてレコーディング業界で“スペシャリスト”を目指すために必要となる感性を生かすための基礎となる論理的思考について、NHK BS で放送された吉岡秀人氏「最後の講義」を題材として話がされました。



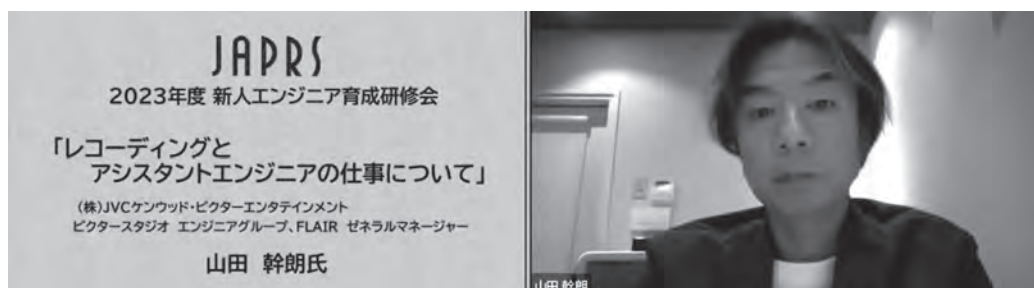
#### 2. 「レコーディングスタジオとはどんな場所？」

山田 幹朗氏

(株) JVC ケンウッド・ビクターエンタテインメント

ビクタースタジオ エンジニアグループ FLAIR ゼネラルマネージャー

○レコーディングスタジオにはどんな仕事があるのか、そしてそこで働く人達との関わり的重要性や、アシスタントエンジニアはどんな仕事なのかについて説明がされました。



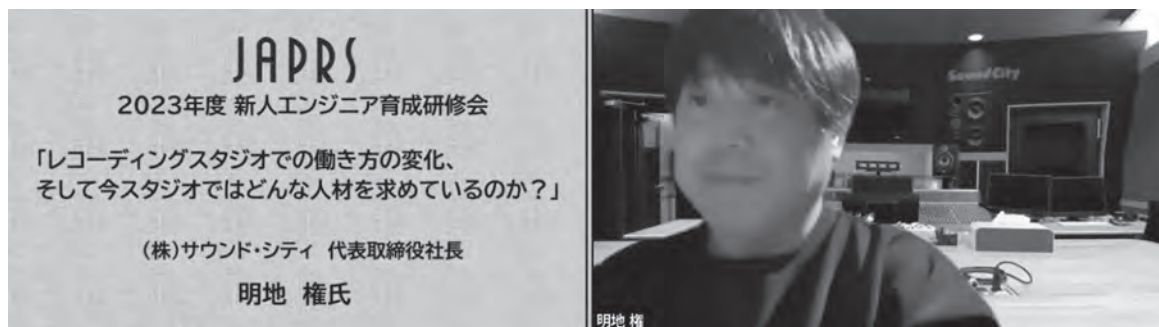


### 3. 「レコーディングスタジオでの働き方の変化、 そして今スタジオではどんな人材を求めているのか？」

明地 権氏

(株) サウンド・シティ 代表取締役社長

- レコーディングスタジオにおける業務や働き方の変化やそれに対応するためのレコーディングエンジニアに必要な能力について説明がされました。



## 【2部】

### 4. 「アシスタントエンジニアQ & Aコーナー」

司会進行：阿部 純也先生（東放学園音響専門学校）

参加エンジニア：

宇佐見 尚之氏	MIT スタジオ	／	東放学園音響専門学校 卒
山本 佳織氏	サウンドインスタジオ	／	東放学園音響専門学校 卒
横山 広海氏	ビクタースタジオ	／	音響芸術専門学校 卒
金高 和奏氏	ミキサーズラボ	／	日本工学院専門学校 卒

- 休憩を挟んで第2部、阿部先生（東放学園音響専門学校）の司会進行により、現場で働くアシスタントエンジニア4名から、今スタジオで毎日どんな仕事をしているのか、入社するまでの経緯やどうしてレコーディングスタジオを目指したのかなど、様々な質問に答えていただく形で進行了しました。
- レコーディングの現場で働いている年齢も近い先輩方からの実体験に基づく話は、学生にとって大変興味深い内容で、今後の学生生活で何を学んで行くべきなのか、大きな指針となりました。



## 5. 「JAPRS からのインフォメーション」

- 2024 年 JAPRS 企業説明会  
2024 年 5 月開催を予定
- レコーディングセミナー（スタジオワーク編）  
2024 年 6 月開催を予定（東京、名古屋、大阪地区開催）
- JAPRS 技術認定試験  
2024 年 7 月 7 日（日）サウンドレコーディング技術認定試験  
2024 年 9 月 8 日（日）ProTools 技術認定試験

レコーディングスタジオやエンジニアの仕事、そしてその業界で働くということの現実について、参加者皆により具体的に伝わることを目指して研修会を開催しましたが、多くの学生がこの業界に興味を持つきっかけとなり、そしてこれからの学校生活の中で何を学ぶべきかのヒントを得ていただけたなら幸いです。

ご協力いただいた講師の皆様、エンジニアの方々、そして発信会場としてスタジオをご提供いただきましたビクタースタジオ様に心より御礼申し上げます。

第21回スタジオ見学会「ソニー・ミュージックスタジオ」

賛助委員会主催 第21回スタジオ見学会「ソニー・ミュージックスタジオ」が11月28日（火）に開催されました。

今回は、360 Reality Audio（サンロクマル・リアリティオーディオ）音源制作業務開始に向けて2021年に開設したイマーシブに特化したスタジオの見学に加えて、360 Reality Audio 開発者をお迎えしその体験デモとイマーシブオーディオスタジオに関する説明、そしてSTUDIO 1 および Mastering 6 の見学を行いました。



岡田賛助委員長

日 時：令和5年11月28日（火）

会場：ソニー・ミュージックスタジオ

内 容：Ⅰ. ご挨拶

中山 博文氏／株式会社ソニー・ミュージックソリューションズ  
ソニー・ミュージックスタジオ

## II. 360 Reality Audio 体験デモ + イマーシブオーディオスタジオ見学

渡辺 忠敏氏／ソニー株式会社 プロフェッショナルソリューション事業室

奥田 裕亮氏／株式会社ソニー・ミュージックソリューションズ

ソニー・ミュージックスタジオ レコーディングエンジニア

### Ⅲ. スタジオ体験（レコーディングスタジオ、マスタリングスタジオ見学）

内藤 哲也氏／株式会社ソニー・ミュージックソリューションズ

ソニー・ミュージックスタジオ レコーディングエンジニア

酒井 秀和氏／ マスタリングエンジニア

※「Ⅱ」「Ⅲ」については、参加者を2グループに分けて入れ替えで実施しました。

最初に参加者全員は STUDIO 1 に集合し、岡田賛助委員長による見学会開催の挨拶の後、ソニー・ミュージックスタジオ 中山氏からのご挨拶、見学会概要の説明そして見学において説明やサポートをいただくスタッフ方のご紹介がされました。

その後、参加者は2グループに分かれて見学会メニューを体験しました。



中山 博文氏



テクニカルエンジニア  
塚 清氏

STUDIO 1において、内藤氏からこのスタジオの概要説明、そして原氏に個別の質問等にお答えいただきました。

## [STUDIO 1]

このソニー・ミュージックスタジオはCBS ソニー六本木スタジオ、CBS ソニー信濃町スタジオに続いて、3カ所目のソニー系スタジオとなり、2001年にピーター・グリューナイセン氏の設計によるものです。今回見学対象となる STUDIO 1 と全く同じ大きさ、配置の STUDIO 2、そして小ブースを1つ持つ STUDIO 3～5 のレコーディングスタジオがあり、コントロールルームのサイ



ズは全て統一されていて、リズム～ダビング～ミックスの各作業においても、整えやすいように考えられているとのこと。ただし、STUDIO 5 のみ 5.1ch のモニターシステム、また STUDIO 4 が SSL のコンソールが導入されている他は NEVE のコンソールとのことでした。

ラージモニターの設置位置が高いことはピーター・グリューナイスン氏のコンセプトとのこと、内装材の生地やブース壁の石ブロックなどもアメリカ産で国内では手に入れ難いものが使用されているとのことでした。

スタジオブースの天井は高い所で 6m、低い所でも 4m あり、また壁に色んな種類の拡散を設けていることで、ガラス面が多いながらもクセのない自然な響きを作り出しているとのことでした。

通常メインフロアに比べてブースの天井はかなり低くなっていることが多い印象ですが、ピアノブースをはじめその天井高にも驚かされました。

また、空調吹き出し口なども高い所に設置され、空調騒音も極めて低く抑えられているとのことでした。加えて、電源についても東京電力から直接 6,600V を引き込み、音響用としてノイズに配慮したクリーンな UPS 電源を採用しており、電氣的な面でも高い SN を実現しているようです。

エントランスからのアプローチを含めて綺麗な状態が保たれており、「非生活感」を大切にしているという言葉が印象的でした。

#### [マシンルーム]

マシンルームに入ると PCM3348HR が最初に目に飛び込んで来ました。こちらは常設で、アーカイブ目的での使用頻度が高いとのこと。



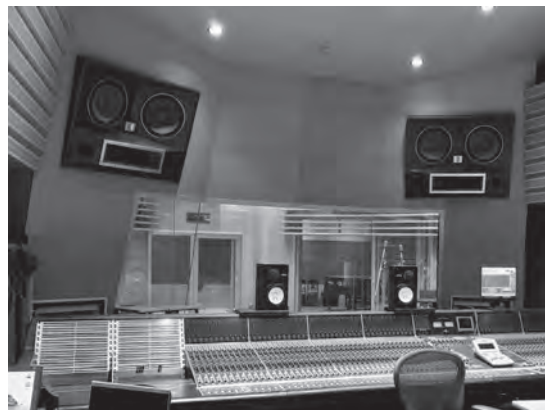
マシンルームに設置された PCM3348HR



レコーディングエンジニア  
内藤 哲也氏



レコーディングエンジニア  
原 剛氏



STUDIO 1 コントロールルーム



各所に設けられた拡散のしくみ



天井高のあるピアノブース



今回見学させていただいたのは、STUDIO 1と2の共通マシンルームとのことで、コンソール電源や制御盤関係が左右に分けて設置されていました。そして、その奥にある扉の向こう側は、EMT（プレートリバーブ）8台が稼働出来る状態で設置されているとのことでした。（内2台はTUBE、他はFET仕様とのこと）

また、STUDIO 1&2で使用されるマイク類もデシケータ内に収納され、その数の多さときちんと整頓された様子に驚かされました。

STUDIO 3～5のマシンルームについてもバックヤードで繋がっていて、機材の入れ替えがスムーズに行えるようになっているとのことでした。

次は、Mastering 6において、マスタリングエンジニア 酒井氏より、マスタリングの基本的作業や昨今のマスタリング事情について説明いただきました。

#### [Mastering 6]

マスタリングとは基本的に各メディアに対応した納品マスターの作成が主な業務となり、CD用の音質調整、曲順並べ、DDPマスターの作成、また各種配信プラットフォームに合わせたファイルの作成を行っているとのこと。

また、古いアナログテープからのリマスター作業も行っており、ベタ付きが発生したテープをオープンで乾燥させて再生し取り込む作業を行う他、デジタルにおいてもCD-Rの音飛びに対処するための取込み等、アーカイブ作業も行っているとのことでした。

基本的にSequoia（セコイア）を使用してデジタル変換、WAVデータ作成を行っていますが、最近はPro Toolsで作成されたデータが



Mastering 6 説明の様子



STUDIO 1&2のマシンルーム  
奥の扉の向こう側に EMT が設置されている



マシンルーム内に保管されたマイクの一部



マスタリングエンジニア  
酒井 秀和氏

持ち込まれた場合、アナログに変換して作業することは少なく、殆どがデジタルベースでの作業となっているようでした。また、192 kHzのようなハイサンプリングを扱うことも少なく、データ容量的にも96 kHzが基本的に上限となっているとのことでした。

最近はアナログ盤の需要も高まり、アナログカッティングに向けた位相を揃えたり高域を抑えたりする調整も行っているとのことでした。

すが、現代の派手なサウンドをカッティングするのは難しく、音楽のイメージを変えずに低域等をどのように入れ込むかが課題となっているとのことでした。昔のアナログ作品は、レコード盤の外周と内周に対する理解がされていて、曲のダイナミクスが上手く調整されていることを実感することもあるそうです。

最後に、第28回日本プロ音楽録音賞にて酒井氏がマスタリングを担当した Best Sound 部門ポップス、歌謡曲において最優秀賞を受賞された作品の、マスタリングの前後を比較試聴する機会をいただきました。

単に音圧アップだけではない音楽創りへのマスタリングの重要性を実感させられました。

そして最後に、2021年にイマーシブ制作に特化して改修を行った M3 (Mastering 3) において、スタジオの概要説明をレコーディングエンジニアの奥田氏、そして 360 Reality Audio の開発に携わっているソニー株式会社の渡辺氏による 360 Reality Audio の説明と、実耳測定 (HRTF 測定) を用いたヘッドホン試聴のデモが行われました。

### [M3 (Mastering 3)]

2021年3～4月にイマーシブの作品が作れるスタジオをとって改修が行われ、再生用のスピーカーとしてムジーク RL906 が、水平線上に7つ、上方に5つ、前方下に3つ設置されていて、水平線上後方2つを除いた13個のスピーカーを 360 Reality Audio のコンテンツを制作する際に使用しており、後方2つと別途天井に設置された4つのスピーカーは Dolby Atmos 制作用として使用され、DAW は Pro Tools を導入し、360 Reality Audio 制作用に 360 WalkMix Creator™ そして Dolby Atmos 制作用に Dolby Atmos Renderer を入れているとのこと。 (サークルが若干狭いもう一つのスタジオと計2つのイマーシブスタジオが準備されている。)



レコーディングエンジニア  
奥田 裕亮氏



ソニー株式会社  
渡辺 忠敏氏

今まで 2ch では前面に広がる音像として音楽制作をしていたが、360 Reality Audio においてはキャンバスが球体となり、好きな方向に音を配置しての音楽制作が可能となりクリエイターの表現の幅が一気に広がりました。また一般リスナーにもコンテンツを楽しんでいただくためには、現在音楽が聴かれるスタイルとして主流であるヘッドホン、イヤホン、スマートフォンによる試聴が必要ではないかと考え、ヘッドホン試聴でもスピーカーに囲まれて聴いているような体験(頭外定位)が出来るソフトウェアの再生技術も含め、開発しているとのこと。



制作された 360 Reality Audio の作品をインターネット上で配信するためには大きなデータ容量を必要とするので、360 Reality Audio Music Format という MPEG-H 技術を使ったフォーマットを制定し、それにエンコードしてデータを配信、そして Amazon Music Unlimited 等に対して、デコーダー、レンダラー、バーチャライザーの技術を提供しているので、リスナーは Amazon Music Unlimited の契約をしていれば 360 Reality Audio の

コンテンツを試聴することが可能となっているとのこと。再生アプリでのソフトウェア処理でバーチャライズまで行われるので、ソニー製に限らずどんなヘッドホン／イヤホンでも再生可能だそうです。

今年から映像も見ることが出来る 360 Reality Audio Live というスマートフォンアプリもリリースしているので、映像付きのライブも楽しめるようになっているとのこと。

以上のような説明を受けた後に、実耳測定（HRTF 測定）を伴う 360 Virtual Mixing Environment（360VME）のデモへと移りましたが、こちらは参加者全員が体験出来るという嬉しいデモでした。

まずは 13 個のスピーカーによる再生でコンテンツ試聴～耳（鼓膜近く）にマイクを装着して 13 個のスピーカーよりテスト信号の再生測定～耳にマイクを装着したままヘッドホンからテスト信号の再生測定、そしてその測定結果をコンピュータによる計算がされた後に、最初に試聴したコンテンツをヘッドホンにより試聴。



M3（Mastering 3）説明の様子

ここで、渡辺氏の説明にもあった「スピーカーに囲まれて聴いているような体験」の通りで、参加者の中にはヘッドホンを外して本当にスピーカーが鳴っていないか確かめる方もいました。この試聴体験により、360 Reality Audio がグッと身近になったと感じました。360VME で 360 Reality Audio の制作がヘッドホンでも手軽にできそうです。この 360VME は国内ではメディア・インテグレーションによるサービスが始まっているとのことですので、期待は高まるばかりです。

最後に、M3 の概要を説明いただいたレコーディングエンジニア 奥田氏が第 28 回日本プロ音楽録音賞 Immersive 部門で優秀賞を受賞された作品を 13 個のスピーカーによる再生試聴をさせていただきました。360 Reality Audio の良さを音楽として体感出来る素晴らしい作品でした。

以上でスタジオ見学会「ソニー・ミュージックスタジオ」の実施報告とさせていただきますが、お忙しい中にも関わらず、スタジオ見学会にきめ細やかに対応いただいた中山氏はじめスタッフの方々に感謝申し上げます。

## 第 21 回スタジオ見学会～ソニー・ミュージックスタジオ～ 見学レポート

ESP 学園 井良沢 元治

ソニー・ミュージックスタジオにて 360 Reality Audio 体験デモ＋イマーシブオーディオスタジオ見学会に参加出来る事になり、私自身も自宅にサラウンド環境は整えていましたが、ガキの頃に覚えている音像に包みこまれる発想での 4 チャンネルステレオ（Quadraphonic Sound）から始まり、万博などでのマルチ音像～サラウンド THX ～ Dolby Atmos etc. など、沢山の音を聞いて来てきました。

技術の進歩はどの程度なのかを、ハッキリと今回は確認出来ました。



今回の 360 Reality Audio のスタジオは、13 台のミュージック RL906 によって構成されていました。

Dolby Atmos は前後左右と上方向のみですが、360 Reality Audio は付け加えて下方向への情報があるので、リアルな球体的な広がりを感じることができ、癖になりそうです。

一番驚いたのは、ヘッドホンでもスピーカー再生と同じ空間を体験出来たことでした。詳しい事は理解していませんが、左右の耳にマイクを付けてテスト信号をスピーカーより発して測定的を行い用意された Sony 製モニターヘッドホンで試聴すると、そのスタジオに設置された 13 台スピーカーから出ているかのように聞こえました。

今までのヘッドホンの聞こえ方の常識が覆りました。今回のような測定をしなくとも、耳形の膨大なデータから判断して空間を作成することも出来るそうです。

今後は、ヘッドホン・SP だけでなく、クラブやライブ会場などでこの臨場感を少しでも感じられる環境が増えると、面白い事が出来そうな気がします。

2014 年 JAPRS でソニー・ミュージックスタジオ レコーディングスタジオ、マスタリングスタジオ見学をした記憶がありました。

マスタリングスタジオでは、最近の音量へアプローチの認識は時代の流れで変化して来ているようで、確認用の音源も聞きやすく、お話ししている意味が耳から伝わりました。

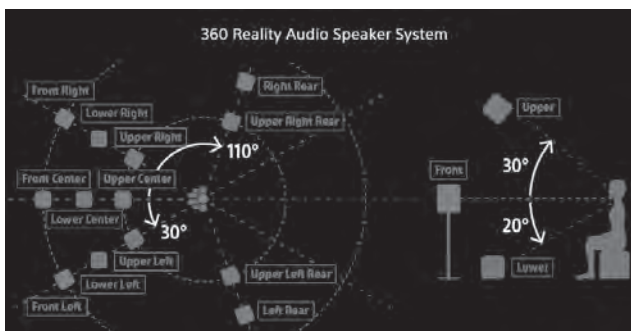
レコーディングスタジオのフローリングの傷で時代を感じましたが、やっぱり、ボード (NEVE88) があり、ラージスピーカがあり、エフェクターラックがあり、EMT140 があり、マシンルームがあり、アイソレーションブースがあり、他にも沢山の物があります。

若い参加者も、感動していたことでしょう。

確か 2001 年オープンなので、以前見学した時は 10 年以上、今回で 20 年以上、古さを感じ無い、メンテナンスの行き届いているクリーンでクールな地下 3 階の素晴らしいスタジオビルは変わっていませんでした。

最後に、古くは、六本木、信濃町、そして現在の乃木坂スタジオ 日本を代表するソニーサウンドの本拠地の未来を、わずかの時間でしたが、体験見学出来ました。

ソニー・ミュージックスタジオの中山様、堺様、内藤様、奥田様、酒井様、原様そしてソニー株式会社の渡辺様、ご説明いただきありがとうございました。





## 第29回日本プロ音楽録音賞 2023 の開催と授賞式レポート

「日本プロ音楽録音賞」は、平成5年に当協会が制定した「JAPRS 録音賞」を出発点とし、音楽制作、録音に対する認識を高め、音楽産業の更なる質の向上、録音技術者の地位の確立などを目的として、平成6年より実施されているものです。

今回29回目の実施にあたり、一般社団法人日本音楽スタジオ協会および一般社団法人日本オーディオ協会、特定非営利活動法人日本レコーディングエンジニア協会、一般社団法人日本レコード協会、一般社団法人MPNの5団体が主催し、経済産業省の後援および日本放送協会、一般社団法人日本民間放送連盟、株式会社ステレオサウンドの協賛、サウンド&レコーディング・マガジン、CD ジャーナル、ステレオサウンド、オーディオアクセサリ、アナログ、ステレオの賛助、並びにNPO 法人ミュージックソムリエ協会、(株) ソニー・ミュージックソリューションズ／mora／ソニー・ミュージックスタジオ、Xandrie Japan (株)、オトトイ (株)／OTOTOY、(株) サウンド・シティ、パナソニック (株)、(株) ミキサーズラボ／ワーナーミュージック・マスタリング、(株) JVC ケンウッド・ビクターエンタテインメント／ビクタースタジオ、(株) ジェネレックジャパン、東放学園音響専門学校、日本コロムビア (株)、(株) キング関口台スタジオ、東洋化成 (株)、(株) JVC ケンウッド・クリエイティブメディアの協力により「第29回日本プロ音楽録音賞」を実施いたしました。

なお今回は、一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会 (SARTRAS) の共通目的基金の助成を受け運営いたしました。



高田運営委員長

そして、令和5年12月6日(水)の「音の日2023」式典の一環として授賞式をKANDA SQUARE HALL に於いて開催し、はじめに高田会長が運営委員長として開会の辞を述べられ、続いて本賞に対し後援を得ている経済産業省 商務情報政策局 コンテンツ産業課 課長補佐 腰田 将也氏が来賓代表として挨拶された後、各部門の最優秀作品発表および受賞者の表彰が行われました。

応募作品の分類については以下の通りとし、審査は以下の5部門、ベストパフォーマー賞を対象に行われ、全119作品の応募からBest Sound 部門「クラシック、ジャズ、フュージョン」：2作品、Best Sound 部門「ポップス、歌謡曲」：2作品、Super Master Sound 部門：1作品、Immersive 部門：2作品、アナログディスク部門：2作品、放送部門「2ch ステレオ」：3作品、放送部門「マルチch サラウンド」：2作品がそれぞれ優秀作品としてノミネートされ、その中から各部門1作品を最優秀作品 (Super Master Sound 部門を除く) として選定し表彰、更にベストパフォーマー賞の表彰も行われました。また、アナログディスク部門最優秀作品をカッティングしたスタジオをカッティングスタジオ賞、作品制作に貢献した2つのスタジオをスタジオ賞、そしてこれからの活躍が更に期待できるエンジニア2名をニュー・プロミネント賞として表彰いたしました。



第29回日本プロ音楽録音賞ポスター



経済産業省商務情報政策局  
コンテンツ産業課  
課長補佐 腰田 将也氏

BestSound 部門：CD、DVD、BD & ノンパッケージ（PCM 96kHz 以下、DSD 2.8MHz 以下）  
 クラシック、ジャズ、フュージョン／応募総数 36 作品  
 ポップス、歌謡曲／応募総数 37 作品  
 Super Master Sound 部門：ノンパッケージ作品（PCM 176.4kHz 以上、DSD 5.6MHz 以上）  
 ／応募総数：12 作品  
 ※Best Sound 部門対象フォーマットからもエントリー可  
 Immersive 部門：サラウンド作品全般／応募総数 18 作品  
 アナログディスク部門：ジャンル問わず／応募総数 8 作品  
 放送部門：2ch ステレオ／応募総数 16 作品  
 （ラジオ番組：AM、FM、衛星放送）（有線放送）  
 （テレビ番組：地上波、衛星放送）  
 マルチ ch サラウンド／応募総数 8 作品  
 （テレビ番組：地上波、衛星放送）  
 ベストパフォーマー賞

今回は、各部門の最優秀作品、優秀作品を紹介するとともに、受賞された代表エンジニアの方々およびベストパフォーマー賞のアーティストに受賞の感想・コメントをいただきましたので、30 頁以降に掲載させていただきます。



第 29 回日本プロ音楽録音賞は、一般社団法人  
 授業目的公衆送信補償金等管理協会 (SARTRAS)  
 の共通目的基金の助成を受け運営されました。

<http://sartras.or.jp>



共通目的事業・助成事業

SARTRAS



# 第 29 回日本プロ音楽録音賞 授賞式次第

## 一、主催者代表挨拶

第 29 回日本プロ音楽録音賞 運営委員長

一般社団法人日本音楽スタジオ協会

会長 高田 英男

## 二、ご来賓ご挨拶

経済産業省 商務情報政策局

コンテンツ産業課

課長補佐 腰田 将也様

## 三、最優秀作品・優秀作品の発表及び表彰並びに審査員講評

Best Sound 部門 クラシック、ジャズ、フュージョン

一般社団法人日本オーディオ協会

会長 小川 理子

特定非営利活動法人日本レコーディングエンジニア協会

理事長 吉田 保

Best Sound 部門 ポップス、歌謡曲

一般社団法人日本レコード協会

理事 須貝あゆみ

一般社団法人日本音楽スタジオ協会

常任理事 三浦 瑞生

Super Master Sound 部門

一般社団法人日本オーディオ協会

専務理事 末永 信一

一般社団法人日本音楽スタジオ協会

会長 高田 英男

Immersive 部門（スタジオ賞 授与を含む）

一般社団法人日本音楽スタジオ協会

副会長 高橋 邦明

一般社団法人日本音楽スタジオ協会

会長 高田 英男

アナログディスク部門（カッティング・スタジオ賞 授与を含む）

一般社団法人日本レコード協会

理事 須貝あゆみ

一般社団法人日本音楽スタジオ協会

副会長 高橋 邦明

ニュー・プロミネント賞

一般社団法人日本音楽スタジオ協会

名誉会長 内沼 映二

## 四、ベストパフォーマー賞の発表及び表彰並びに審査員講評

一般社団法人 MPN

副理事長 松武 秀樹

理事長 椎名 和夫

## 五、最優秀作品・優秀作品の発表及び表彰並びに審査員講評

放送部門 2ch ステレオ

日本放送協会 メディア技術局

専任局長 高橋 直幸

放送部門 マルチ ch サラウンド

日本放送協会 メディア技術局

専任局長 高橋 直幸

株式会社 dream window

代表 深田 晃

以上

## 第 29 回 日本プロ音楽録音賞 2023 受賞エンジニア & 作品紹介

**Best Sound 部門 「クラシック、ジャズ、フュージョン」** (写真は☆印の代表エンジニア)

[最優秀賞]

■作品「Ricordi Lontani」より「シャンプー」 Hikari Aoki avec Ron CARTER (Golden Striker Trio)

発売元：株式会社ギザ フォーマット：96kHz/24bit 2ch

☆ミキシング & マスタリング・エンジニア：川崎 義博 (フリーランス)

〈受賞のことば〉

この度、第 29 回日本プロ音楽録音賞で最優秀賞を受賞できたことに心から感謝しております。音楽制作において、レコーディングエンジニアとしての役割を果たし、その成果が最高評価されたことは非常に嬉しいです。アーティストの青紀ひかりさん、アレンジャー、Sax 奏者の鈴木央紹さんや制作チームの皆さんと一緒に作った作品が評価される事が何よりも光栄で、これからも更なる挑戦を続けていきたいと思っています。



この作品は“ミスターベース”ロン・カーター率いるゴールデン・ストライカー・トリオとご一緒できた、とても光栄な作品でした。録音現場では、ロンさんの全てのテイクを無駄にしないように、音に拘りつつスピーディーなセッティングと、演奏者のモニター環境に気を使いました。録音当時 85 歳のロンさんが奏でるプレイは、全てのテイクにフレッシュなアイデアが取り入れられ、遊び心がふんだんに入った唯一無二の演奏で、採用されなかったテイクも全て聞くことができ幸せな時間でした。アルバム収録されている演奏はほぼ一発録音されたテイクが採用されており、そんな緊張感のあるバンド演奏と同録、ワンテイクで唄の録音も行われ、青紀ひかりさんの集中力にも脱帽しました。そんなアルバムのレコーディングは驚異的なスピードで進行し、あっという間のセッションだったと記憶しております。

ミックスでは、唯一無二の歌声をもつ青紀ひかりさんの声を中心にバンドが支えるライブセッションのような仕上がりを意識しました。また、ロン・カーター氏のベースを始め、ドナルド・ヴェガ氏のピアノ、ラッセル・マローン氏のギターの音色はスタジオでの演奏風景を思い描きながら音作りをしています。改めて、ハイレゾで聞いてほしい作品です。

この度は、光栄な機会を頂きまして、ありがとうございました。

[優秀賞]

●作品「ショスタコーヴィチ：交響曲第 10 番」より「ショスタコーヴィチ：交響曲第 10 番より第 2 楽章」

アレクサンドル・ラザレフ指揮 日本フィルハーモニー交響楽団

発売元：日本フィルハーモニー交響楽団 フォーマット：96kHz/24bit 2ch

☆ミキシング・エンジニア：塩澤 利安 (日本コロムビア株式会社)



### 〈受賞のことば〉

この度は名誉ある賞に選定して頂き大変光栄に思います。常に多くの目標を持って様々なレコーディングに臨んでいます、「日本プロ音楽録音賞受賞」も私の目標の中の一つです。目標の一つ達成出来たことに心から喜びを感じております。



今回受賞した作品は、2021年10月に開催した熱気に満ちたコンサートのライブ録音です。桂冠指揮者兼芸術顧問アレクサンドル・ラザレフ氏と日本フィルハーモニー交響楽団の名コンビによる演奏を作品として届けることができました。日本フィルハーモニー交響楽団のオリジナルレーベル「JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA RECORDINGS」により制作されております。

録音は音響の良さに定評のあるサントリーホールによるもので、壮大で力強くダイナミックなサウンドが場内に響き渡っているさまをありのままに捉えました。コロナ禍の影響下でのコンサートでしたので、指揮者の周りは極力スペースを取る配慮が必要で、ストリングスが指揮者から2メートルほど離れて配置されました。メインマイクを中心としたサウンド創りには難のある条件ですので、仕上がった作品のサウンドにも表れているかもしれません。

この作品創りに於いてコンサートよりももっと深い感動を音だけで表現することができるか、直感的な印象も大切にしながらベストなサウンドを目指しました。何かを感じ取って頂ける作品となったのではないのでしょうか。

最後になりますが、素晴らしい演奏を創り上げた皆様、制作に携わった全ての方々に心から感謝いたします。ありがとうございました。

○マスタリング・エンジニア：佐藤 洋 （日本コロムビア株式会社）

○アシスタント・エンジニア：久志本 恵里 （日本コロムビア株式会社）

**Best Sound 部門 「ポップス、歌謡曲」**（写真は☆印の代表エンジニア）

[最優秀賞]

■作品「東京 Longing」 krage

発売元：株式会社ソニー・ミュージックレーベルズ フォーマット：48kHz/24bit 2ch

☆ミキシング・エンジニア：房野 哲士

（株式会社ソニー・ミュージックソリューションズ）

### 〈受賞のことば〉

この度は、第29回日本プロ音楽録音賞、Best Sound 部門「ポップス、歌謡曲」にて最優秀賞にご選定いただき、大変光栄に思います。

音の感じ方というのは非常に主観的であり、自分が作る音が果たして他の人にとって良い音なのか悩むこともありましたが、今回このような賞をいただき客観的な評価を得られたことはとても嬉しいです。



今回この楽曲に私を起用して下さったアーティストの krage さん、レーベルの大貫さん、

マスタリングの森崎さんには、この場を借りてお礼申し上げます。

この楽曲は大都会での新生活の不安や葛藤を歌う曲で、今回は無機のような有機、有機のような無機を意識してミックスしました。

オケは15トラック程しかない非常にシンプルな楽曲で、無機的なシーケンスが多い中、キックとベースが絡むと全体に生命力が吹き込まれ有機的にも感じられます。ベースの40Hzを感じられるサウンド作りも生命力を増すことができると考えこだわりました。

このオケにkrageさんの素晴らしい歌声、表現力が絡み合い楽曲にグルーブが生まれました。

レコーディングではリードボーカルとオクターブ下しか録っていませんでしたが、私自身がこの曲が大好きでどうしても表現したい世界観があったため、頼まれてもいないのに勝手にコーラスを作りラフミックスを送ったところ、快く採用していただきました。

良い音を作るのは当たり前で、音楽をより良くするエンジニア、をモットーに更なる研鑽に励んで参ります。

○マスタリング・エンジニア：森崎 雅人（有限会社タイニーボイスプロダクション）

〔優秀賞〕

●作品「Transcend」(TECE-3697)より「人間模様」石川さゆり

発売元：株式会社テイチクエンタテインメント CD

☆マスタリング・エンジニア：菊地 功

(株式会社ミキサーズラボ ワーナーミュージック・マスタリング)

〈受賞のことば〉

この度は、第29回プロ音楽録音賞の優秀作品に選出して頂けましたこと、恐悦至極に存じます。また、この賞の運営に携われました関係者の皆様、審査に関わられました皆様のご尽力に対しまして、敬意を表し、感謝申し上げます。



この作品は、『ラッカーマスターサウンド』という技法を使っています。分かりやすく言えば、レコードになるときに使用されるラッカー盤を使って音源を作り、その音源をデジタルに変換して、マスタリングするという方法です。TDマスターをVMS-80でカッティングをして、そのラッカー盤をパナソニック社・SL-1200GR-S、オルトフォン社『SPU Classic GE MK II』で再生し、Pyramix384Kで取込みました。

最大の特徴は、アナログレコード特有の音の深さ、空間、優雅な優しさが表現出来る点にあります。

今回は、石川さゆりさんのアルバム「Transcend」より「人間模様」で応募しました。斎藤ネコさんのアレンジによるリメイクですが、オーケストラのスケール感を存分に感じ取れ、その中でもビオラ・チェロ等の包み込むような優しい音色、さゆりさんの艶のあるヴォーカルが一体感を出している素晴らしい作品です。その良い所を、最大限引き出せるようなマスタリングを心掛けました。

このような作品に携われる機会を頂きました、石川さゆりさん、斎藤ねこさん、内沼映二さん、テイチクレコード佐藤 尚さん、そして関係された皆様に感謝申し上げます。有難うございました。

- ミキシング・エンジニア：内沼 映二（株式会社ミキサーズラボ）  
○カッティング・エンジニア：加藤 拓也  
（株式会社ミキサーズラボ ワーナーミュージック・マスタリング）

**Super Master Sound 部門**（写真は☆印の代表エンジニア）

[優秀賞]

●作品「Transcend」(SSMS-066) より「風の盆恋歌」 石川さゆり

発売元：株式会社テイチクエンタテインメント SACD 2ch

☆ミキシング・エンジニア：内沼 映二  
（株式会社ミキサーズラボ）

〈受賞のことば〉

この度、第 29 回「日本プロ音楽録音賞」スーパーマスターサウンド部門優秀賞にご選定頂き、感謝とお礼を申し上げます。

受賞頂きました作品は、石川さゆりさんの 50 周年記念企画アルバム一枚です。

アルバムコンセプトは、音楽ファンはもとよりオーディオファンにも納得できる高音質を目標に収録からミックスまで音に拘った作品に仕上げました。

一般音楽ファン向けにはテイチクエンタテインメントからレギュラー CD（ラッカーマスターサウンド）と 33 回転アナログ盤を、オーディオファン向けにはステレオサウンド社から、オーディオファンから絶対的に支持されている SACD 盤（シングルレイヤー）と、曲数を増やした 45 回転のアナログ盤を発売することになりました。

収録は、音楽プロデューサーである斎藤ネコ氏と綿密な打ち合わせの結果、ストリングス収録は木質の響きが定評の東急文化村スタジオ（ビッグバンドは、広さと豊富な機材が売り物のビクタースタジオ）で収録しました。

この SACD 盤に関しては、オーディオ界に精通しているステレオサウンド社の原田知幸氏にスーパーバイザーとしてご参加いただきました。

原田氏曰く、熱心なオーディオファンは CD でなく SACD、それもシングルレイヤーであり、一般の CD のようなレベルを突っ込んだサウンドでなく、コンプレッションされていないのを望んでいる。これらの事を踏まえ原田氏の希望もあり、アナログ・コンソールでミックスされた音源をアナログ・ハーフインチからダイレクトにピラミックスの DSD2.8M に録り、マスタリングは必要最低限の作業に留め、SACD 用のマスターにしました。

当然、収録レベルは低くなりますが（CD と比べると 6db 以上低い）圧縮されない開放的なサウンドをオーディオファンは喜んでいただけたと思います。

○スーパーバイザー：原田 知幸（株式会社ステレオサウンド）



**Immersive 部門** (写真は☆印の代表エンジニア)

[最優秀賞] (プログラミング・サウンド)

■作品 4th シングル「Mainstream」より「SOS」 BE : FIRST

発売元：エイベックス・ミュージック・クリエイティヴ株式会社 360 Reality Audio

☆ミキシング・エンジニア：當麻 拓美 (株式会社山麓丸)

〈受賞のことば〉

この度は第 29 回日本プロ音楽録音賞 Immersive 部門にて、最優秀賞に選定して頂き大変光栄に思います。

BE : FIRST さんとは 1st アルバムの頃から 360 Reality Audio という未知の領域に共に挑戦して頂いたこともあり、今回 BE : FIRST さんの楽曲で受賞できたことを心から嬉しく思います。

楽曲が持つアレンジ、ステレオ MIX でのイメージを損なわない事を第一に考え、イマーシブというフォーマットで体験できる価値に向き合いながらの作業でした。

複数人ボーカルのグループという事で、メインのボーカルに対して多くのバックアップボーカルがあり、まるで自分がメンバーに囲まれているかのような体験ができる事や、楽曲の持つ気配がより没入感を引き立たせる様に背後の広がりや頭上で鳴っていると明確に感じやすい配置と残響を意識しました。

イマーシブというフォーマットにチャレンジして以来、試行錯誤の毎日ですが、素晴らしいフォーマットと感じる毎日でもあります。アーティスト様の表現の幅をより拡張できる様、ファンの方々がより世界に入り込める様にこれからも精進してまいりたいと思います。

改めて、この度は楽曲の 360 Reality Audio を担当させて頂き、最優秀賞に選定して頂いた事を心より御礼申し上げます。



○アシスタント・エンジニア：鳥越 裕史 (株式会社山麓丸)

[最優秀賞] (アコースティック・サウンド)

■作品「Beautiful Dreamer」tea

発売元：有限会社スーパーボーイ 360 Reality Audio

☆ミキシング・エンジニア：高田 英男 (株式会社ミキサーズラボ)

〈受賞のことば〉

日本プロ音楽録音賞の Immersive 部門 (アコースティック・サウンド) において、最優秀賞を頂きまして有難う御座います。

この作品は 1864 年フォスターの名曲「Beautiful Dreamer」を、シンガー tea により 360 Reality Audio を前提にミュージシャンと連携して、サウンドの方向性～アレンジ打合せを重ねて創作した作品です。録音スタジオは東京音楽大学・中目黒校舎のスタジオを使い、シンガー tea の歌の魅力を軸として、クリストファー・ハーディのタム演奏&時枝 弘のベース・サウ





ンドによるタイトでグルーブ感あるビートを創り、間奏ではアンビエントサウンドを生かしたサウンド創りとし、オーケストラが入る特大教室独特の響きを生かしたタムのソロ～teaのエスニックスキャット演奏をイマーシブサウンドとして創作致しました。スタジオ録音と特大教室を使った響きの融合による 360 Reality Audio によるポップなヴォーカル・イマーシブサウンドの音楽です。更に、録音現場を詳細に映像収録したミュージックビデオを制作し、イマーシブサウンドによるヴォーカル作品とミュージック映像が連携する 360 Reality Audio Live の作品となっております。

最後になりましたが技術的にサポート頂きました、ソニー（株）プロフェッショナルソリューション事業部（渡辺忠敏氏）、映像制作 STUDIO OTUS（大森広樹氏）、ミキサーズラボ・エンジニア（梅津達男氏）、（株）サウンド・シティ オーディオ技術部（中山太陽氏）に心より感謝申し上げます。

○アシスタント・エンジニア：宮嶋 萌里 （株式会社ミキサーズラボ）

[スタジオ賞]

■作品 4th シングル「Mainstream」より「SOS」BE：FIRST

発売元：エイベックス・ミュージック・クリエイティヴ株式会社

360 Reality Audio

受賞スタジオ：株式会社山麓丸 山麓丸スタジオ



■作品「Beautiful Dreamer」 tea

発売元：有限会社スーパーボーイ

360 Reality Audio

受賞スタジオ：株式会社サウンド・シティ tutumu



**アナログディスク部門**（写真は☆印の代表エンジニア）

[最優秀賞]

■作品「Transcend Extra edition」(SSAR-093～094) より

「ウイスキーが、お好きでしょ」石川さゆり

発売元：株式会社テイチクエンタテインメント 30cm 45 回転

☆カッティング・エンジニア：北村 勝敏

（株式会社ミキサーズラボ ワーナーミュージック・マスタリング）

〈受賞のことば〉

この度は名誉ある賞を頂き、大変光栄です。これも素晴らしい音源があればこそ成し得る事が出来たわけであり、また有能なスタッフのアシストも不可欠でした。アナログ・テープでハーフ・インチ、76cm/s という 1980～90 年代のアナログ・レコード全盛期に於いても最高スペックの一つと言える音源からのカッティングは、自身にとっても久々ではありました



が、改めて潜在能力の高さに音を聴いた瞬間から圧倒されました。本当にこの音をカッティング出来るのだろうかという不安と闘志が湧き上がって来た事を覚えています。また30cm、45rpm という高音質仕様ゆえ、カッター・アンプとカッター・ヘッドが耐えられるだろうかという物理的な要因も不安を一層掻き立てられました。

更に今回はテープ送り出し機の都合で、高レベルなカッティングには不可欠なプレビュー・ヘッドの信号が使えない事も一番大きな壁でした。一旦ハーフ・インチ・テープの音源を DAW に取り込み、極めて特殊な技法で 0.667 秒早めたプレビュー信号をメインのハーフ・インチ・テープの音源と同期させ、高レベルなカッティングを実現させました。カッティング終了後、顕微鏡での音溝チェックも、かつて見た経験が無いダイナミックさに圧倒されましたが、一発 OK の判断が出せたカッティング・マシンの調整も完璧でした。

改めてこのカッティングに携われた事と、全てのスタッフの方々に心より感謝申し上げます。

○ミキシング・エンジニア：内沼 映二 （株式会社ミキサーズラボ）

[優秀賞]

●作品「I Love You」(SSAR-091 ～ 092) より「素敵なあなた」オフコース

発売元：ユニバーサル ミュージック合同会社 30cm 45 回転

☆カッティング・エンジニア：松下 真也 （PICCOLO AUDIO WORKS）

〈受賞のことば〉

この度は日本プロ音楽録音賞アナログディスク部門優秀賞を頂戴し誠に光栄に思います。

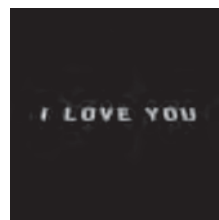
賞を頂きました作品はオリジナルが1982年に発売され、多くの方々に聴かれてきた名盤ですので、リマスタリングにあたってはオリジナルのイメージからかけ離れたものにはならないよう注意して取り組みました。

本作品は制作陣の方々のご尽力によりオリジナルアナログマスターからリマスタリングができた事も本当に有難い事です。

一度もデジタル化せずフルアナログで時間をかけたマスタリング、カッティングが許された事は音質面で有利にはたらいたと思っています。

今後も一つ一つの作品を丁寧により良い仕事ができるよう丁寧に取り組んでいきます。

改めまして本作品に関わらせていただき心より感謝申し上げます。



[カッティングスタジオ賞]

■作品「Transcend Extra edition」(SSAR-093 ～ 094) より

「ウイスキーが、お好きでしょ」石川さゆり

発売元：株式会社ティチクエンタテインメント 30cm 45 回転

受賞カッティングスタジオ：

株式会社ミキサーズラボ ワーナーミュージック・マスタリング



## ニュー・プロミネント賞

房野 哲士：株式会社ソニー・ミュージックソリューションズ  
※Best Sound 部門ポップス、歌謡曲 最優秀賞



當麻 拓美：株式会社山麓丸  
※Immersive 部門（プログラミング・サウンド）最優秀賞



## 放送部門 「2ch ステレオ」 （写真は☆印の代表エンジニア）

[最優秀賞]

■作品「BUMP OF CHICKEN 18 祭 1000 人のここから」より  
「窓の中から」BUMP OF CHICKEN、18 歳から 20 歳の若者 1000 人

日本放送協会 HDTV stereo 2023 年 3 月 31 日放送

☆ミキシング・エンジニア：佐藤 陽介（日本放送協会）

〈受賞のことば〉

この度はこのような賞を頂き大変光栄に  
思います。普段より音楽番組を通し、少し  
でも視聴者の皆さまに感動を届けたいと奮  
闘しているなか、今回の受賞は励みと自信  
になりました。



本番組は「18 祭」というタイトルの通り、本来は 18 歳の若者を対象にしたプロジェク  
トですが、今回はコロナ禍の約 3 年間、様々な制限を受けながら時間を過ごした 18 歳か  
ら 20 歳までの 1000 人の若者が対象となりました。若者たちの爆発するパワーを、いかに  
高密度かつエネルギッシュな音で表現できるかが一番の課題でした。感染対策上互いの距  
離を確保した結果、1000 人がアーティストを 360 度囲む配置となり、隙間が目立つよう  
になりましたが、BUMP OF CHICKEN との一体感や、若者のエネルギーを余すことなく  
収音するために、コーラスに 58 本、ブラスバンドに 41 本のマイクを使用しました。

通常のミックスアプローチでは、バンドから処理し、後にコーラス等を足していきます  
が、今回はコーラスとブラスバンドの処理を先に行い、バンドを融合させていくアプロ  
ーチをとりました。結果、プランニング時にイメージしたエネルギー溢れる作品にまとめる  
ことができたと思っています。また照明や映像のカット割りなども存分に音に反映させま  
した。このイベントに意志を持って参加した若者の心に共感し、彼らと BUMP OF  
CHICKEN が創り上げた一夜限りの音楽が、見た方々の心を揺さぶることができたらと願  
うばかりです。

この度は誠に有難うございました。

○セカンド・エンジニア：遠藤 美紀（日本放送協会）

○セカンド・エンジニア：宮下 真理子（株式会社 SCI）

[優秀賞]

●作品「サントリー 1万人の第九 2022 / LIFE is Symphony 歌って、世界中を幸せにしよう。」より

「LIFE is SYMPHONY ベートーヴェン 交響曲第九番ニ短調 作品 125 第 1 楽章から第 3 楽章」

佐渡裕、布袋寅泰、角野隼斗、1万人の第九オーケストラ他

毎日放送 HDTV stereo 2022 年 12 月 17 日放送

☆ミキシング・エンジニア：田中 聖二（株式会社毎日放送）

〈受賞のことば〉

大変栄誉ある賞を頂き誠にありがとうございます。ミキシングエンジニアとして今後の励みになります。

1万人の第九 40 回という記念回において、杉浦邦弘氏が編曲されたロックとクラシックの融合『布袋寅泰 × 佐渡裕「第九」第 1～3 楽章“LIFE IS SYMPHONY”』は、私にとって音楽の世界での特別な瞬間であり、その瞬間を音に刻むことができたことを誇りに思います。



この楽曲に相応しい各楽器の音色、MIX バランス、エレキギターとオーケストラの MIX バランスは、指揮者佐渡裕氏と布袋寅泰氏とともにディスカッションを繰り返しながらの MIX となりました。布袋寅泰氏とのコミュニケーションを通じて、アーティストの情熱や意図を理解し、また、その音楽性を学ぶことにより、自身のミキシング技術を活かし、この楽曲に独自の魅力を加えることができたと思います。

今回の制作に携われたことは、非常に貴重な経験であり、佐渡裕氏、布袋寅泰氏からの学びは私のキャリアに新たな刺激をもたらし、エンジニアとしての成長の機会になると同時に、音楽が人々を結ぶ力を改めて感じさせられる瞬間でした。

音楽はチームワークの産物であり、共に歩んでくださったすべての方々に心から感謝申し上げます。

これからもより一層精進し、音楽の世界に貢献していけるよう、さらなる挑戦に挑んでいきたいと思っています。

○セカンド・エンジニア：大谷 紗代（株式会社毎日放送）

○セカンド・エンジニア：東 光信（株式会社サウンドエースプロダクション）



[優秀賞]

●作品「六本松サテライト FES 2023 春」より

「壊れかけの Radio」 徳永英明

日本放送協会 HDTV stereo 2023 年 3 月 24 日放送

☆ミキシング・エンジニア：清川 愛珠（日本放送協会 福岡放送局）

〈受賞のことば〉

この度はこのような賞を頂き、大変嬉しく思っております。関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

この番組は、2022 年度までラジオ番組として放送していた「六本松サテライト」の特別編として、テレビ版で制作しました（2023 年度よりテレビ番組として放送中）。公開収録のステージでは九州沖縄にゆかりあるアーティストが名曲の数々を披露し、会場からのオンライン生配信を含め、多くの視聴者にお楽しみいただきました。

番組のラストを飾る「壊れかけの Radio」では、徳永英明さんの繊細な歌声と、優しくも力強い楽曲の魅力に浸っていただけるような音を目指しました。長年多くの人に愛されてきたこの曲をミクシングできることに心躍る一方で、だからこそ皆様にご満足いただける最高のクオリティでお届けしなければというプレッシャーもありましたが、収録時の素晴らしい歌唱と演奏に感動し、どうすればこの魅力を引き立てられるのかを常に考えながら今の自分が持つ力を最大限注ぎ込んで制作に臨みました。

出演者およびスタッフの皆様をはじめ、様々な場面で支えてくださった皆様のお力が結び合わさった結果、このような素敵な番組を作り上げることができたのだと思います。ありがとうございました。

今回の受賞を励みに、今後もより多くの視聴者に楽しんでもいただける番組をお届けできるよう精進してまいります。



○セカンド・エンジニア：高橋 英明（日本放送協会 福岡放送局）

○フロア・チーフ：平原 康裕（日本放送協会 福岡放送局）

放送部門 「マルチchサラウンド」 （写真は☆印の代表エンジニア）

[最優秀賞]

■作品「クラシック音楽館 / ファビオ・ルイージ首席指揮者就任記念コンサート」より

「作曲：ベートーベン 曲目：バイオリン協奏曲 ニ長調」

指揮：ファビオ・ルイージ 演奏：ジェームズ・エーネス（Vn） NHK 交響楽団

日本放送協会 HDTV 5.0ch 2022 年 10 月 16 日放送

☆ミキシング・エンジニア：島寄 砂生（日本放送協会）

〈受賞のことは〉

この度は名誉ある賞をいただき、誠にありがとうございます。

クラシック音楽館は、

NHK 交響楽団の定期演奏会をはじめとし、世界的な指揮者、ソリストを招いて行われる演奏会の模様を 5.1 サラウンドで放送しています。

応募した作品は、サントリーホールでの N 響定期演奏会です。NHK のオーケストラ収録では、トラックダウンを介さずダイレクトミキシングで制作していることが多く、今回も同様にダイレクトミキシングでの収録となっています。サントリーホールの暖かく豊かな音響をそのまま届けられるように、メインマイクロホンを中心にスポットマイクの使用やリバーブ処理を最小限にとどめ、自然な録音を心がけました。また演奏会当日は、TV 収録とともに FM でも生放送しています。5.1 サラウンドとステレオを両立するのは難しく、悩みながらミキシングしておりますが、どちらもマエストロが築き上げた演奏会の迫力や会場の雰囲気を見聴者の皆さまにお伝えできればと思い制作しています。

このような機会を与えてくださった関係各所の方々に感謝申し上げます。

○セカンド・エンジニア：前川 陽州（日本放送協会）

○アシスタント・エンジニア：矢嶌 諭（株式会社 ネオテック）

〔優秀賞〕

●作品「プレミアムシアター / 東京二期会「天国と地獄」より

「オペレッタ「天国と地獄」第二幕 二場より」

出演：渡邊公威 湯浅桃子 他 合唱：二期会合唱団

管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団 指揮：原田慶太楼

日本放送協会 HDTV 5.0ch 2023 年 1 月 15 日放送

☆ミキシング・エンジニア：矢嶌 諭（株式会社 ネオテック）

〈受賞のことは〉

この度は名誉ある賞に選定して頂き大変光栄に思います。音声技術者としての目標をまた一つ達成できた事に、心から喜びを感じています。

出演された皆様、二期会合唱団の皆様、東京フィルハーモニー交響楽団の皆様、その他お世話になった全ての皆様へ心より御礼を申し上げます。

目指した音は、コロナ過でありながらも大盛況だった公演の熱気と、客席で鑑賞しているような臨場感を再現することでした。

レコーディングでは、歌手と合唱団の歌声が、舞台奥から客席へ向かって響き渡る立体的な音を、そのまま收音することに拘りました。舞台面には複数のバウンダリーマイクを効率的に配置して歌唱を收音し、場面ごとに変わるセットに対応するため、補助マイクとして超指向性のマイク等をセットや字幕版の裏に隠し收音しました。

トラックダウン～MA では、客席で鑑賞しているような臨場感の再現「S 席の音」を心がけながら音創りを行いました。特に日本語での上演でしたので、言葉の一語一語すべ



て聞き取れるよう、細心の注意を払いながらミキシングを行いました。

レコーディング、トラックダウン、マスタリング、MAまで一貫して音声技術を担当でき、目標とする音へ向かって効率良く丁寧に向き合ったことが、今回の受賞へ結びついたと感じています。

最後に、ご指導賜りました先輩・同僚の皆様へ感謝申し上げるとともに、今後もより良い音創りを目指して精進してまいります。

○セカンド・エンジニア：船津 龍人（日本放送協会）

○アシスタント・エンジニア：寺戸 葉菜（株式会社 ネオテック）

### ベストパフォーマー賞

#### ■作品「凧 -RIN-」(POUR-1009) より 「AMESA for Two Pianos」

発売元：ブルクワレーベル CD

アーティスト：安田 美充央 石井 彰



#### 〈受賞のことば〉

この度は、このような名誉ある賞を頂戴し、誠に光栄に思っております。

2021年、安田美充央が偶然にも出会ったピアニスト石井彰氏の素晴らしい技量・才能に一目惚れし、2台ピアノの構想をお話したところから全ては始まっています。

初対面に近い最初のリハーサルの時、お互いの出す音が二物衝撃のように響き、波乱の音楽世界の幕開けを感じました。

それは書かれた音楽、即興の音楽、あるいはクラシックやジャズを超えた何かを探る音の旅の始まりでした。

今回、ベスト・パフォーマンス賞を頂きました「AMESA for Two Pianos」は元々バーゼル室内管弦楽団に書いたオーケストラ曲ですが、今回初めて2台のピアノというフォーマットに再構築したものです。

楽曲は極めて稠密に書いた部分と、まったく即興に任せた部分から成り立っており、その距離感や目の前の音の風景をどう捉えるかが演奏の鍵でありました。

単に演奏しただけでは成り立たない音の本質的な流れを、内面から表現できたのではないかと感じています。

また、今回の録音を通じて、俯瞰的に見ながらも細部に本質は宿る、ということを感じました。

両者が独立したパフォーマーとして存在する中で、さらに他者との音の河を見据えていけば、見たことのない風景が静かに広がっているかも知れません。

今後は、世界中に一つしかない何かを表現していければ良いと思っています。



石井 彰

安田 美充央

## 審査委員会

総合審査委員長 内沼 映二 副審査委員長 高田 英男、高橋 邦明  
Best Sound 部門、Super Master Sound 部門、Immersive 部門、アナログディスク部門（一部代表者により審査）  
審査委員：内沼 映二、岡部 潔、奥原 秀明、川澄 伸一、  
椎名 和夫、塩澤 利安、末永 信一、高田 英男、  
高橋 邦明、増田 晋、松武 秀樹、三浦 瑞生、  
山田 幹朗、吉田 保、脇田 貞二  
放送部門 審査委員：深田 晃、阿部 健彦、五十嵐公彦、今村 公威、  
亀川 徹、中島 博和、松永 英一

（以上 50 音順）

今回の顕彰内容については、各部門の最優秀作品と優秀作品の制作に携わったミキシング・エンジニア、マスタリング・エンジニア及びベストパフォーマー賞のアーティストに表彰状とクリスタル製の表彰楯を贈呈し、セカンド・エンジニア、アシスタント・エンジニアなど関わられたスタッフには表彰状を贈呈。

また、優秀作品の制作に大きく関わられたスタジオに「スタジオ賞」、アナログディスク部門の最優秀作品をカッティングしたスタジオに「カッティング・スタジオ賞」として、優秀なスタッフと良好な環境の提供に対して顕彰、そしてこれからの活躍が更に期待出来るエンジニアに対し「ニュー・プロミネント賞」として表彰状とクリスタル製の表彰楯が授与された。



受賞者集合写真



## 第 29 回日本プロ音楽録音賞 2023 審査委員講評

### < Best Sound 部門 クラシック、ジャズ、フュージョン >

#### < 最優秀賞 >

作品名：「シャンプー」

Hikari Aoki avec Ron CARTER (Golden Striker Trio)

レコーディング&ミキシング・エンジニア：川崎 義博様



特定非営利活動法人  
日本レコーディングエンジニア協会  
理事長 吉田 保

唄から入ってくる楽曲で全体的にオンマイクロフォン録音になっていて、奏者との距離が凄く間近に聞こえる近親感が感じられる録音です。

ロン・カーターは沢山の作品をメディアで出していますが、その大半はライブハウス録音。その中で貴重なスタジオ録音となっております。録音データが手元に無くマイクロフォン等どんなものを使用したかは分かりませんが、拝聴した感じを講評したいと思います。

曲中での録音特性は高域までしっかり録音されており、気持ち良く聞ける作品となっています。特にウッドベースの録音はなかなか難しくなっている中、低域から高域までしっかり録音されており好感が持てる音色になっていて、また非常に集中した感じが音に出ています。エレキギター、アコースティックピアノの音は本当に眼前で聞くとこのような音となるのかと思うほどの感じが、ありありと録音表現されております。スタジオ録音於けるヴォーカルマイクの選定は非常に難しく、ヴォーカリストは常にマイクに近付きたがる気持ちが常にありますが、マイクに近づくとリップノイズ、マイク吹き、音がピーキーになりますので、その点を対処しなくてはなりません。若干その点を対処すれば、更に良い録音になっていたと思います。しかしながら、全体として気持ちよい録音作品となっていることは間違い無いと思います。

今回の最優秀賞受賞おめでとうございます。

#### < 優秀賞 >

作品名：「シオスタコーヴィチ：交響曲第 10 番より第 2 楽章」

アレクサンドル・ラザレフ指揮 日本フィルハーモニー交響楽団

(ライブレコーディング@サントリーホール)

ミキシング・エンジニア：塩澤 利安様 (日本コロムビア株式会社)

先ずサントリーホールでのライブレコーディングにおいて、これ程会場ノイズが無い録音に驚かされました。コロナ禍での録音と言う事で、指揮者から 2m 離れたところに演奏者の配置、そこにメインマイクの配置、それを中心に録音されたと言うセッティングが逆に功を奏したと思います。これだけの大編成のオーケストラでありながら弦セクションがはっきり録音されており、また木管の定位、金管の定位、打楽器の定位もはっきりしており安定した音像となっています。指揮者がスコアを見ながら指揮をする、演奏者がパート譜を見ながら演奏する、その全体を見ながら録音する、正にまた指揮者の如く録音をする。スコア見るような録音とは、このような録音を言うのかも知れません。正にアカデミックな録音が再現されたクラシック録音となっていて非常に完成された作品です。補助マイクのセッティングによりバッテリーセクションの定位もはっきりしています。これもミ

キシング技術がより高度になっている証であり、その技術に敬意を払います。木管に於いてもピッコロが入ってくると、そのバランスが大きくなりがちではありますがそれも良く制御されており、塩澤さんの技術、感性の高さが良く分かるミキシングとなっていると言えるでしょう。メインマイク、補助マイクのミキシングの力量が発揮された、正に近現代的クラシックレコーディングのお手本と言えるでしょう。

優秀賞授賞おめでとうございます。

## < Best Sound 部門 ポップス、歌謡曲 >

僭越ではございますが、BestSound 部門（ポップス、歌謡曲）の講評をさせていただきます。

今回 BestSound 部門（ポップス、歌謡曲）は、36 の応募作品がありました。

1 次審査を経て最終審査において、最優秀賞、優秀賞が一作品ずつ選ばれました。

### < 優秀賞 >

まずは優秀賞、石川さゆりさんの「人間模様」CD

マスタリング・エンジニア 菊地 功さん

ミキシング・エンジニア 内沼 映二さん

カッティング・エンジニア 加藤 拓也さん

おめでとうございます。



(一社) 日本音楽スタジオ協会  
常任理事 三浦 瑞生

この楽曲は、さゆりさんの唄を、2 本のアコースティックギターとストリングスのセクションが包み込むようなサウンドの楽曲です。

唄の抑揚に合わせて生楽器のミュージシャン達も歌うように演奏されています。

唄の声質も、ナチュラルで素晴らしいですし、ストリングスの音色も倍音豊かで艶があり、とてもスケールが大きく表現されています。

この作品は「ラッカーマスターサウンド」という技法を用いてマスタリングされたようです。

「ラッカーマスターサウンド」と言うのは、TD マスターを一度アナログレコードを作成する時に使うラッカー盤にカッティングし、それをレコードプレーヤーで再生したものをデジタイズしマスタリングすると言うものです。そう言った工程を経ているので、カッティングエンジニアの加藤さんの名前もクレジットされている訳ですね。

この工程を経る事と、菊地さんのマスタリング技術で、音の奥行き、広さと深さ、優しさを表現されたのではと思います。

特に 66443 というストリングスのスケール感と艶やかな音色、コントラバスの低音の豊かさなどは、ラッカーマスターサウンドの効果が大きかったのでは？と思います。

生楽器で構成され、アナログの技術を利用した素晴らしい作品でした。おめでとうございます。

### <最優秀賞>

さて、次に最優秀賞ですが、  
Krage さんの「東京 Longing」48kHz/24bit  
ミキシング・エンジニア 房野 哲士さん  
マスタリング・エンジニア 森崎 雅人さん  
おめでとうございます。

この楽曲は基本的に打ち込みのサウンドで、比較的少ない音数で構成されていますが、其の一つ一つの音がしっかりと役割を果たしています。

音数が少ないと言う事は、一つ一つの音の重要性が高く、楽曲に合った良い音、美味しい音である事を求められる訳ですが、それを見事に果たしていて、この楽曲の持つ、ある種の閉塞感と解放感、脱力感と躍動感というコントラストを見事に表現しつつ、気持ち良いグルーブを産み出しています。

特に低域を支えるベースとキックの安定感が特徴的で、ベースは、かなり低い帯域まで出していますが、とても豊かでありつつも余計な贅肉はない感じで、しっかりと音程感もあり、この楽曲の土台をしっかりと支えていると思います。

また音と音の空間表現が素晴らしく、楽器の余韻の消えるタイミングと次の音が出るタイミングも計算されている感じがしましたし、空間の広さ感も、シーン毎に変化させていると感じました。

ヴォーカルの声質も艶やかで美しく、しっかりした土台の上で、楽曲の主演として、とても自由に表現をされていると思いました。

楽曲を俯瞰で見ると、100Hz から 10kHz までの間で基本的な音楽の部分をしっかりバランスをとり作られているので、ある程度どんな再生装置で聴いても曲の印象が大きく崩れる事は無いですし、更に 100Hz から下の帯域、10kHz から上の帯域でこの曲の色気を出していると思いました。

また音圧的にも申し分なく、音圧を上げる事でサウンド的に崩れている所は無いと思いました。

まさに今風の楽曲と言う感じで、サウンド的には欧米のヒットチャートで流れてきても全然おかしくないと思います。

房野さん、森崎さん、また素敵な音楽、美味しいサウンドを創り続けていただけたらと思います。

本日は、誠におめでとうございます。

### < Super Master Sound 部門 >

第 29 回 Super Master Sound 部門 応募数 3 作品

\* 音楽ビジネスがストーリーリング配信に進む中、ハイスペック・ハイレゾ音楽制作への今後の展開が気になる次第です。

顕彰区分（日本プロ音楽録音賞 運営委員会決議）

- ・ 昨年まではオールジャンルでの審査区分になっているが、「クラシック、ジャズ、フュージョン」「ポップス、歌謡曲」を区分して顕彰を行う。
- ・ 但し、応募総数を踏まえて検討する。



(一社) 日本音楽スタジオ協会  
会長 高田 英男

- ・ Best Sound 部門 (96kHz/24bit) スペックで、Super Master Sound 部門への応募は可能とする。
- \* 今年度応募数が3作品と少ない為に、Best Sound 部門で Super Master Sound 部門への審査可能な作品について、皆様に推薦をお願いしましたが多くの審査委員が推薦した作品は全て Best Sound 部門で受賞される作品であり、3作品での審査を行う。
- ・ 応募数が3作品の為に、最高点数の作品を優秀賞とさせて頂きました。

### <講評>

Super Master Sound 部門 優秀賞

「Transcend」より「風の恋盆歌」

アーティスト 石川さゆり 発売元 (株) テイチクエンタテインメント SACD 2ch

ミキシング・エンジニア : 内沼 映二 (株) ミキサーズ ラボ

スーパーバイザー : 原田 知幸 (株) ステレオサウンド

この作品は石川さゆりさん 50 周年記念企画であり、音楽ファンはもとよりオーディオファンにも納得できるコンセプトとして企画されました。受賞作品はストリングス+ヴォーカルの編成の楽曲です。レコーディングは音楽プロデューサー (斉藤ネコ氏) と綿密打ち合わせを行い、ストリングス録音は木質の響きの良い東急文化村スタジオで収録されました。(参考写真 - 1)

特に印象的なサウンドとして、イントロ・間奏における繊細且つ大胆なストリングス音創り～ミキシング、具体的にはバイオリンの繊細な音色・リバーブ処理と音量バランスやコントラバスの凄い低音と大胆な音量バランス (参考写真 - 2) は、サウンドから音楽の哀愁感が強く伝わり、ミキシングにおける最も大切な肝となる音の表現力を感じた次第です。

更にこの作品はステレオサウンド原田氏の強い思いにより、熱心なオーディオファンに向けミックスマスター (ハーフインチ・アナログマスター) 音質を忠実に SACD (シングルレイヤー) にする為に、マスタリング工程を必要最小限にして Pyramix DSD2.8MHz に取り込みをされた作品です。

### <纏め>

受賞されました石川さゆりさん「風の恋盆歌」を試聴し、レコーディングエンジニアとして、録音への拘りの大切さ～ミキシングによる音楽表現への力を感じ、デジタル時代の今もう一度ハイレゾリューションによる音楽制作の魅力を探究する思いを強く感じた次第です。

最後になりましたが、受賞されました皆様おめでとう御座います。



参考写真 - 1



参考写真 - 2



## < Immersive 部門 >

Immersive 部門 応募数 13 作品

サラウンド 5.1ch : 1 作品

Dolby Atmos : 4 作品

360 Reality Audio : 8 作品

顕彰区分（日本プロ音楽録音賞運営委員会による決議）

制作意図は必ずしも音楽ジャンルに縛られるものではないので、エントリーは Immersive 部門としてのジャンル分けをせずに、審査試聴の結果を基に、制作意図を汲んだ上で顕彰区分を判断する。

- ・打込み音源中心の音楽（プログラミング・サウンド）とする。
- ・アコースティック楽器中心の音楽（アコースティック・サウンド）とする。



（一社）日本音楽スタジオ協会  
会長 高田 英男

## < 講評 >

Immersive 部門

### < 最優秀賞（プログラミング・サウンド） >

4th シングル「Mainstream」より楽曲「SOS」アーティスト BE:FIRST

ミキシング・エンジニア 當麻 拓美 (株) 山麓丸

アシスタント・エンジニア 鳥越 裕史 (株) 山麓丸

ミックス・スタジオ 山麓丸スタジオ

アーティスト BE:FIRST は7人組のダンス&ヴォーカルグループです。

圧倒的な低音域によるグルーブ感・バックメンバーに囲まれるイマーシブ感・高音域のシーブなシンセ音源による上層に広がる解放感など、360 Reality Audio 独特の3層（上層・中層・下層）の空間表現を見事にサウンド化された素晴らしい作品です。先日當麻さんにインタビューをしております、イマーシブサウンド音楽はレンダリングしてお客様はヘッドホンで試聴する為に、ミックス作業もヘッドホンにて約7割位を創り込みます。特に低音域の安定感・量感と背面定位には十分に注意します。更にアーティストのファンの皆様はバックボカールそれぞれのファンがいる為に、意図的にパート別にリバーブ処理や音創りを变化させ各フレーズを印象付けるなど、アレンジとイマーシブサウンド創りが一体化した作品であり、當麻さんの技術力・感性の凄さを体感させて頂きました。

録音エンジニア業界において、サウンドプロデューサーエンジニアとして次世代の新たなエンジニアが活躍する時代を実感する作品です。



山麓丸スタジオ

### < 最優秀賞（アコースティック・サウンド） >

楽曲「Beautiful Dreamer」アーティスト tea

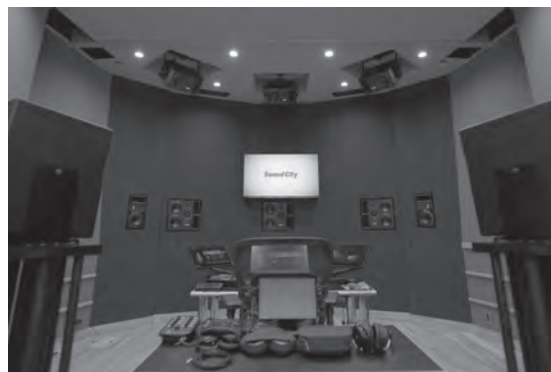
ミキシング・エンジニア 高田 英男 (株) ミキサーズ ラボ

アシスタント・エンジニア 宮嶋 萌里 (株) ミキサーズ ラボ

録音スタジオ 東京音楽大学 中目黒校舎 スタジオ&特大教室

ミックス・スタジオ サウンド・シティ tutumu

この作品は1864年フォスターの名曲「Beautiful Dreamer」を、シンガー tea により 360 Reality Audio を前提にミュージシャンと連携して、サウンドの方向性～アレンジ打合せを重ねて創作した作品です。企画の段階で東京音楽大学のスタジオ&特大教室での録音を決め、スタジオではタイトでグルーブ感があるポップなサウンドを創り（参考写真-3）、曲の間奏では全く異なるアンビエントサウンドによるイマーシブ感を創る為に特大教室（大変広く天井が高いオーケストラの練習室）に設置されている上下移動するバトンにワイヤーを使いマイクを吊り、特大教室独特のアンビエントサウンドを創りました。（参考写真-4）スタジオのタイトなサウンドと特大教室のアンビエントサウンドとの融合によるイマーシブサウンドを目指しました。全てがオブジェクト音源である 360 Reality Audio の技術的特徴を生かし、強調したいヴォーカルや楽器は同じオブジェクト音源を別な定位に貼付けるなど、チャンネルベースでのミックスでは出来ないアプローチにより、360 Reality Audio ならではの新たなポップなヴォーカル作品が創れたと感じています。更に録音現場の風景動画がイマーシブサウンド音楽と一体化した作品となっています。



サウンド・シティ tutumu



参考写真 - 3



参考写真 - 4

#### <纏め>

イマーシブサウンドによる音楽制作は、音楽の魅力を伝える大きな力を持っています。更に立体的サウンドがお客様にヘッドホンやイヤホンで届けられる事も、大きな魅力です。ホール録音・ライブ録音・打ち込み音源によるイマーシブサウンドでの音楽制作は、イマーシブサウンドの優位性が発揮出来ますし、スタジオを使ったアコースティック録音も音楽をクリエートする大きな可能性を感じております。是非このイマーシブサウンドによる音楽制作を、ソフト・ハード共に協力しビジネス的活性化を進め、日本から世界に向けて新しい音楽の魅力を伝えて行けたらと思っております。

最後になりましたが、受賞されました皆様、おめでとう御座いました。

## <アナログディスク部門>

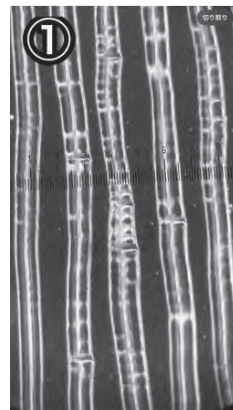
まずは、受賞された皆さま、誠におめでとうございます。アナログディスク部門は一昨年度より新設されまして、今年度は3回目となります。33 1/3 回転盤8作品、45 回転盤5作品の計13作品の応募がございました。カラーレコードの応募も1作品ございました。なお、昨今のアナログレコード・リリース状況を鑑み、今年度より新録音源のみならず、旧譜音源につきましても「リミックスされた作品、または新たにカッティングされた作品」も応募対象となっております。全13作品中、新録音源は6作品、旧譜音源は7作品でございました。新譜音源、旧譜音源とも、現代ならではのレコード制作プロセスが感じられる作品が多く、その制作されたアナログディスクの音質、音場感を非常に興味深く審査させて頂きました。



(一社) 日本音楽スタジオ協会  
副会長 高橋 邦明

さて、優秀賞作品のオフコース「I LOVE YOU」(SSAR-091～092、制作・発売：ユニバーサルミュージック合同会社、企画・販売：株式会社ステレオサウンド) よりA面2曲目「素敵なあなた」ですが、カッティング・エンジニアはPICCOLO AUDIO WORKSの松下真也(まつした しんや)さんです。この作品は1982年リリースの旧譜音源より新たにカッティングされました。1/4インチ76cm/sのオリジナル・アナログマスターテープを銘機AMPEX ATR102で再生、様々なヴィンテージ機器を駆使し、45回転盤のアナログレコードに最適化するようにアナログドメインのみで音質調整を施した上で、こちらも銘機テレフンケンのハーフインチ・テープレコーダーでカッティングマスターを制作されたとのこと。カッティングマシンはスカーリー製です。その音質ですが、40年以上前に制作された作品とは想像できない極めて鮮烈なサウンドに仕上がっております。リリース当初よりも厚みがあり且つ、しっかりと芯のある低音域、効果的なギターサウンド、そして心踊るコーラスワークが音場を形成しており、私自身も大変ワクワク致しました。古いオリジナル・マスターテープからということですので、テープコンディション等から並々ならぬご苦労があったのではと想像致します。松下さんの音楽を知り尽くしたカッティング技術にはとても感嘆致しました。

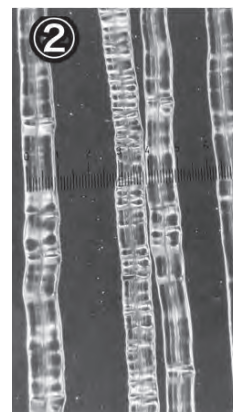
そして、最優秀賞作品の石川さゆり「Transcend Extra edition (トランセンド エクストラ エディション)」(SSAR-093～094、制作・発売：株式会社テイチクエンタテインメント、企画・販売：株式会社ステレオサウンド) よりB面1曲目「ウイスキーが、お好きでしょ」ですが、カッティング・エンジニアが株式会社ミキサーズラボの北村勝敏(きたむら かつとし)さん、ミキシング・エンジニアが同じく株式会社ミキサーズラボの内沼英二(うちぬま えいじ)さんです。この作品は新譜作品であり、Best Sound部門 ポップス、歌謡曲優秀賞、及びSuper Master Sound部門優秀賞を受賞した作品の高品位45回転180g重量盤となります。既に講評で述べられておりますが、やはりこちらのアナログレコード盤もビッグバンド・サウンドのオケ、石川さゆりさんのヴォーカルが鮮烈、超高音質で展開されております。高解像度でありながら、極めて自然な音色、音場感。感動しました。これはそのマスター音源のみならず、類まれなるカッティング技術が寄与し、トランジェントが精密に再現された成果ではと想像致します。アナログレコードの特徴を知り尽くし、ラッカー盤と向き合い、より



参考写真 - 5



魅力的に音楽を刻んでいく技術力、感性。さすがは北村さんと感嘆せずにはられません。審査後になりますが、今年も応募された盤をお借りして、顕微鏡で溝を覗いてみました。あまり上手く撮れておりませんが、今回はiPhoneで撮影しておりますのでご覧ください。(参考写真-5) 45回転盤ですので隣の溝とは約1.3秒差があります。そのカッティングされた溝は安心感のなかにもダイナミズムがあり、とても美しく感じます。一見、余裕があるようにも見えますが、振幅の大きさを鑑みますと、美しくもダイナミックな溝であります。また、一方でギリギリまで攻め込んでいる溝もあり(参考写真-6)、これは緻密な計算と豊富な経験の両輪で成り立っている卓越したカッティングの技であると感じます。この作品の音楽全体を捉え、線速度で有利な外周部を巧みにつかまえており、思わず音楽に没頭してしまう素晴らしい高音質のアナログディスクサウンド作品です。



参考写真-6

最後になりますが、今年度の優秀賞作品、最優秀賞作品とも株式会社ステレオサウンド様が企画・販売をされております。今後とも、音楽ファン、オーディオファンを魅了する素敵な作品のリリースを期待せざるを得ません。これからもどうぞ宜しくお願い致します。

私の方からはこちらでアナログディスク部門の講評とさせていただきます。あらためまして受賞された皆さま、まことにおめでとうございます。

### <ニュー・プロミネント賞>

房野さん、富麻さんニュー・プロミネント賞おめでとうございます。

このニュープロミネント賞は、今年から新たに設定した賞です。

数年前までは、ニュー・プロミネントマスター賞として若いエンジニアを顕彰する賞でした。

昨年もお話ししましたが、若いエンジニアのプロ録への参加意識を活性化するために、新人賞やら30歳以下、35歳以下とかいろいろ顕彰区分を試行錯誤してきましたが、ここ数年はおかげさまで若いエンジニアのエントリーが多くなりました。

特に今年のベストサウンド部門に於いては、予備審査から本審査に残った作品の1/3が20、30代の作品でした。

この事を踏まえ、高田委員長とも相談した結果、これまでの新人賞的な顕彰区分でなく、本来の意味である「プロミネント」なサウンドを創る若いエンジニアを顕彰する賞にしたらどうかと言う考えに至り、この事を運営委員会に審議して頂き承認を頂きました。

Best Sound 部門、Immersive 部門で、常任理事の三浦さん、運営委員長の高田さんから講評をいただきましたが、お二人とも、誰もが納得する素晴らしいサウンド創りで、もうベテラン、若手の垣根がなくなってきた時代になってきたと実感する今回のプロ録でした。

このニュー・プロミネント賞は、これからの時代を担って頂きたい若いエンジニアを顕彰したいと思いますので、場合によっては今年のように各部門と重複して顕彰される事があるかもしれませんが宜しくお願いいたします。



(一社) 日本音楽スタジオ協会  
名誉会長 内沼 映二



## <ベストパフォーマー賞>

安田美充央さん、石井彰さん、ベストパフォーマー賞受賞おめでとうございます。

この AMESA for two Pianos、AMESA というのは、伺いましたらバスク語で夢という意味だそうで、ふたつのピアノのための夢ということなんでしょうか。たぶんかなりダイナミックな、ワイルドな夢なんだと思います。

お二人の経歴を簡単にご紹介しますと、安田さんは国立音大の作曲学科ご出身で、ヨーロッパと東京を拠点に活躍されている作曲家でありパフォーマー。アルバムデビューがドイツのウィンター & ウィンターレコードということで、まさに世界を舞台に活躍されているマエストロでいらっしゃいます。

かたや石井さんも、同じく大阪音大の作曲科ご出身ということで、まあ、そこが共通する点なのだと思いますが、1998 年からなんと 20 年間日野皓正さんのバンドでピアニストとして活躍されてきた、超絶技巧筋金入りのピアニストでいらっしゃいます。

このお二人がどこでどう出会われて、この作品につながるのか、今日初めてお目にかかりましたので、これからいろいろとお話を伺ってみたいなと思っております。

ピアノという楽器は、今更なんですが、倍音のかたまりと言いますか、和音を弾けばオケヒット。一つの楽器なのにオーケストラの全帯域をカバーできてしまう楽器であって、しかもダイナミックスもウルトラ広い、またペダルを踏めばリバーブにもなるという、まあ化け物のような楽器だとも思います。それが2台ということになり、しかもそれを録音するというのは、とてもチャレンジャーだと思います。僕の乏しい経験のなかで、ピアノって和音が減衰していくときに必ず濁るというか、ぎゅーんと混変調してしまうような、個人的には若干扱いにくいイメージがあるんですが、それを感じさせない、少し硬めの音で、倍音を保ちながら減衰していくようなある種不思議な音に感じてしまって、とても引き込まれてしまいました。それって、2台での音の積みとかフレージングもそうですが、ペダルのタイミングとか、きっと奥の深い世界なんだろうなと思います。

この安田さんと石井さんは、2016 年のベストパフォーマー賞を受賞された吉田美奈子さんとエコーというプロジェクトもやっておられます。また別に弦楽器を加えたユニットもあったり、たぶんもう外形的な様式とかは取っ払っちゃって、楽器の特性に寄せた形でいろいろ発想されているんじゃないかなという気がして、そこが、とてもパフォーマー的ではないかと思った次第です。そのあたり、ご自身の声をどんどん追い込んでいく美奈子さんとなにかしら響きあうものがあるんだと思います。

これからのいろいろな組み合わせで、端正でいてダイナミックな音楽を次々に生み出していただげるんじゃないかと、まさにベストパフォーマーではないかと思った次第です。これからのいろいろ聞かせていただくのを楽しみにしたいと思います。

安田さん、石井さん、本日はおめでとう御座います。



(一社) MPN  
理事長 椎名 和夫

## <放送部門 2ch ステレオ／マルチ ch サラウンド>

放送部門応募作品数

2ch ステレオ 15 作品

マルチ ch サラウンド 8 作品

### <2ch ステレオ>

優秀賞は2作品の選定となりました。

優秀賞：「サントリー 1 万人の第 9 2022

/LIFE is Symphony 歌って世界中を幸せにしよう」より

佐渡裕、布袋寅泰、角野隼斗、1 万人の第九他

毎日放送 HDTV stereo 2023 年 12 月 17 日放送

ミキシング・エンジニア：田中聖二 株式会社毎日放送

セカンド・エンジニア：大谷紗代 株式会社毎日放送

セカンド・エンジニア：東 光信 株式会社サウンドエースプロダクション



(一社) 日本音楽スタジオ協会 理事  
(株) dream window  
代表 深田 晃

優秀賞：「六本木サテライト FES2023 春」より「壊れかけの Radio」徳永英明

日本放送協会 HDTV stereo 2023 年 3 月 24 日放送

ミキシング・エンジニア：清川愛珠 日本放送協会福岡放送局

セカンド・エンジニア：高橋英明 日本放送協会福岡放送局

フロア・チーフ：平原康裕 日本放送協会福岡放送局

最優秀賞：「BUMP OF CHICKEN 18 祭 1000 人のここから」より「窓の中から」

BUMP OF CHICKEN、18 から 20 歳の若者 1000 人

日本放送協会 HDTV stereo 2023 年 3 月 31 日放送

ミキシング・エンジニア：佐藤陽介 日本放送協会

セカンド・エンジニア：遠藤美紀 日本放送協会

セカンド・エンジニア：宮下真理子 株式会社 SCI

放送部門 2ch ステレオは 15 作品の応募がありました。上位 3 作品は点数が僅差でそれぞれ良さがああり、審査員の協議により優秀賞を 2 作品選定することにしました。

### <講評>

- ・優秀賞 1 作品目は日本放送協会制作の「六本木サテライト FES2023 春」より「壊れかけの Radio」徳永英明 です。受賞おめでとうございます。

この作品は非常にバランスが良くミキシングされています。リズムや各楽器のバランスが非常にうまく取れており、安心して聞けるものになっていました。楽曲の理解とミキシングに無理がないと思います。決して派手な楽曲ではありませんが、歌に寄り添うような音色やバランスはとても良いと感じました。サビの部分などで多少 Vocal がつまっていると感じる部分がありました。

今後も「音楽」を理解し、技術上の苦勞を感じさせないスマートなミキシングを期待しています。

- ・優秀賞 2 作品目は毎日放送制作の：「サントリー 1 万人の第 9 2022/LIFE is

Symphony 歌って世界中を幸せにしよう」です。受賞おめでとうございます。

これはミキシングが非常に難しいと思われる楽曲でした。

オーケストラとエレキギターの共演、というなかなか同居できないものをミックスするというチャレンジングな作品でした。

ベートベンの第9であり、ミキシングは大きなスケール感で楽曲をうまく表現できていました。一方、オーケストラのサウンドとしてはエレキギターの圧力に負けないような通常のマイキングではなくよりポップス的な手法を用いた録音の方がオーケストラの存在を強くすることができ、さらにバランスが良くなったのではないかと思います。

「最終的な楽曲をどのように視聴者に伝えるのか」を常に考えてマイキングをプランニングするというのを大切にしていきたいと思います。

- ・最優秀賞は日本放送協会制作の「BUNP of CHIKEN 18 祭 1000 人のここから」より「窓の中から」BUNP of CCHIKIN,18 から 20 歳の若者 1000 人 です。

最優秀賞おめでとうございます。

バンドを中心に 360 度に 1000 人のコーラス、そして吹奏楽を演奏する若者達という規模の大きな作品。非常に大変なミキシングであると思いますが全体のスケール、世界観がうまく表現されていました。この大人数で伝えたかったであろう音楽的意図は視聴者に確実に伝わってきました。Cho マイクへの音の被りの処理などは大変だっただろうと想像できますが、これをまとめ上げた技術力は大きく評価できます。

その上で、指摘するとするとメイン Vocal がもう少し欲しい点と Chorus の音色が細い事、Chorus の広がり感が出ると尚良いと思われました。

とはいえ、最優秀に相応しい作品になっていました。改めましておめでとう御座います。

## <マルチ ch サラウンド>

優秀賞：「プレミアムシアター／東京二期会「天国と地獄」より

「オペレッタ「天国と地獄」第2幕2場」より

出演：渡邊公威、湯浅桃子 他 合唱 二期会合唱団

管弦楽 東京フィルハーモニー交響楽団 指揮：原田慶太楼

日本放送協会 HDTV 5.0ch 2022 年 10 月 16 日放送

ミキシング・エンジニア：矢瀧諭 株式会社ネオテック

セカンド・エンジニア：船津龍人 日本放送協会

アシスタント・エンジニア：寺戸葉菜 株式会社ネオテック

最優秀賞：「クラシック音楽館／ファビオ・ルイージ首席指揮者就任記念コンサート」より

作曲：ベートーベン ヴァイオリン協奏曲ニ長調

日本放送協会 HDTV 5.0ch 2022 年 10 月 16 日放送

ミキシング・エンジニア：島崎砂生 日本放送協会

セカンド・エンジニア：前川陽州 日本放送協会

アシスタント・エンジニア：矢瀧諭 株式会社ネオテック

## <講評>

- ・優秀賞は日本放送協会制作、「プレミアムシアター／東京二期会「天国と地獄」より

「オペレッタ「天国と地獄」第2幕2場」より です。受賞おめでとう御座います。  
大人数で展開するオペレッタの場面「天国と地獄」でカオスの中歌う歌手の表現がとても良かったです。オーケストラの楽器の音色もよく全体としてバランス良く表現できていると思いました。しかしながら歌の音色が硬い印象がある事、サラウンド感が少し弱いという意見もありました。5.0chをどう活かステレオとの違いや伝えたいポイントをもう少し整理すればより良くなった様に思います。今後もチャレンジを続けてください。

- ・最優秀賞は日本放送協会制作、「クラシック音楽館／ファビオ・ルイージ首席指揮者 就任記念コンサート」より 作曲:ベートーベン ヴァイオリン協奏曲ニ長調 です。受賞おめでとう御座います。

安定したオーケストラサウンド、サントリーホールの響きを的確に捉えたサラウンド感で完成度の高い作品になっています。V1ソロの音色も良好です。オーケストラ録音として破綻のない仕上がりで最優秀賞に相応しいサウンドになっています。NHKはN響定期演奏会などオーケストラ録音における録音チャンスが多く、蓄積してきたノウハウが多くあり、そういった意味では他局よりも有利な立場にあると思います。放送局各局の技術交流の中でそういったノウハウの共有も行っていただき、放送局全体のレベルアップにつなげてもらえればと思います。

最優秀賞おめでとう御座いました。

放送部門全体の印象としましては例年番組規模が大きくなり、大編成での収録が多くなっていると感じました。演出的には面白い部分もあるでしょうが、音声技術が如何に大変であるかという認識が少ないのではないかとともに思います。

こういった賞を通じて録音技術者の力量をアピールする事でエンジニアの地位をより高めていければと思います。

今後も賞に応募いただいて業界全体の発展に寄与していただきたいと思います。

受賞された皆さん、おめでとう御座いました。



## 「音の日2023」



2023年12月6日（水）に（一社）日本オーディオ協会主催の『音の日2023』が開催されました。

今回も「日本プロ音楽録音賞授賞式」もその一環として開催され、「学生の制作する音楽録音作品コンテスト表彰式（レックスタ）」と連携して一緒の会場にて執り行われました。

当日の式典は下記の通り進行いたしました。

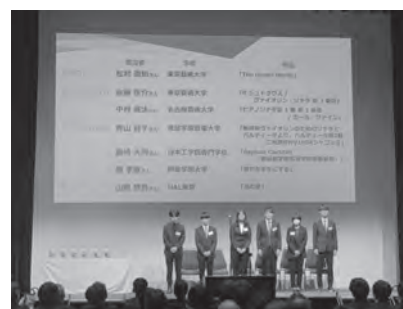
1. 学生の制作する音楽録音作品コンテスト（レックスタ）表彰式
2. 日本プロ音楽録音賞授賞式
3. 音の匠 顕彰式
4. 懇親会

式典は「学生の制作する音楽録音作品コンテスト表彰式」から始まり、最優秀賞、優秀企画賞、優秀録音技術賞、奨励賞を受賞された7名の表彰、そして作品の再生が行われました。

続いて、学生録音コンテスト（レックスタ）の受賞者など学生も残る同じ会場で第29回日本プロ音楽録音賞授賞式が行われ、受賞作品の紹介および表彰がされました。

次に「音の匠顕彰式」が行われ、選定された奈良県立医科大学 学長 細井裕司氏に表彰状とトロフィーの授与がされ、特別講演が行われた。

そして、最後に同会場後方およびホワイエにて懇親会が開催され、「音の日2023」は滞りなく終了いたしました。



学生の制作する音楽録音作品  
コンテスト（レックスタ）表彰式



日本プロ音楽録音賞授賞式



「音の日2023」懇親会



音の匠顕彰式

## 会 員 動 向

### 1. 会員数（令和6年1月1日現在）

正会員（法人）	20 法人	準会員	1 法人
正会員（個人）	13 人		
賛助会員Ⅰ	41 法人	賛助会員Ⅱ	2 法人

### 2. 入会

#### ①個人正会員

菅井 雄作

10月1日付

### 3. 退会

#### ①個人正会員

鈴木 智雄

6月30日付

### 4. 法人・会員代表者および住所変更、その他

#### ①法人正会員

##### ○法人名変更

（旧）株式会社エグジット音楽出版

（新）株式会社 EMP

##### ○法人代表者変更

株式会社サウンド・シティ

（旧）坂口 平兵衛

（新）明地 権

##### ○法人代表者変更

株式会社 USEN

（旧）田村 公正

（新）貴船 靖彦

#### ②賛助会員Ⅰ

##### ○法人代表者変更

タックシステム株式会社

（旧）山本 隆彦

（新）山崎 淳

##### ○会員代表者変更

タックシステム株式会社

（旧）山崎 淳

（新）益子 友成

##### ○会員代表者変更

専門学校 ESP エンタテインメント大阪

（旧）原田 朝子

（新）石居 裕

○会員代表者変更

東京スクールオブミュージック & ダンス専門学校

(旧) 布村 展行

(新) 佐久間 康明

○その他

賛助会員社の株式会社エムアイセブンジャパンと株式会社ジェネレックジャパンは合併となり、令和6年1月より株式会社ジェネレックジャパンとして会員継続となります。

5. その他

○担当者変更

経済産業省 商務情報政策局 コンテンツ産業課

(旧) 梅澤 隼 (課長補佐)

(新) 腰田 将也 (課長補佐)

○法人名変更

(旧) 一般社団法人 演奏家権利処理合同機構 MPN

(新) 一般社団法人 MPN

○代表理事変更

協同組合 日本映画製作者協会

(旧) 新藤 次郎

(新) 押田 興将





## ♪ 編 集 後 記 ♪

新年明けましておめでとうございます。

本年は「2024年問題」というのが取りざたされている様ですね。細かいことはわからないのですが、その中の一つに、時間外労働の上限規制の猶予が認められていた職種についても、その猶予が終了するという問題があります。バスの運転手がすでに足りないとか言っていますが、さらに深刻化する事態になるとニュースでよく見かけます。我々の業界も働き方に関しては、新しい取り組みが必要だと感じています。時間に縛られて、働きたくても働けない職種にならないように、皆でアイデアを出して乗り切っていきましょう。今年もよろしくお願い申し上げます。

Ryu1.N

寒暖が交互にやって来て今の季節が一体何なのか分かり難い昨今。ゆっくりと移り行く季節の中でじっくり考え事でもしてみたいなと。。。今年もよろしくお願いいたします。

Pesonai

明けましておめでとうございます。

去年は多くの出会いがあり、改めて直接人と会って話すことの大切さを実感しました。本年も宜しくお願い申し上げます。

mm

\*\*\*\*\* 総 務 委 員 会 \*\*\*\*\*

委員長 中村 隆一（ミキサーズラボ）

委員 内藤 重利（事務局）

” 伊東 真奈美（ ” ）

\*\*\*\*\*

【発行人】 会 長 高 田 英 男 【発 行】 2024 年（令和 6 年）1 月

【発行所】 一般社団法人 日本音楽スタジオ協会

〒169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 1 番 11 号 モナーク大久保 3F

TEL. 03-3200-3650 FAX. 03-3200-3660

<https://www.japrs.or.jp> E-mail:japrs@japrs.or.jp

【編 集】 総 務 委 員 会

【印刷所】 株式会社研恒社



# JAPRS

Japan Association of Professional Recording Studios

<https://www.japrs.or.jp> E-mail: [japrs@japrs.or.jp](mailto:japrs@japrs.or.jp)